

病原微生物検出情報

月報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)

http://www.nih.go.jp/yoken/iasr/index-j.html

Vol. 18 No. 3 (No. 205)

1997年 3 月発行

国立予防衛生研究所
厚生省保健医療局

エイズ結核感染症課

事務局 国立予防衛生研究所感染症疫学部内
〒162 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-edc@nih.go.jp

(禁、無断転載)

幼稚園と事業所における *S. Enteritidis* 大型食中毒：和歌山市 3, *S. Enteritidis* による死亡例：大阪市 5, 感染性胃腸炎患児からの SRSV 検出：香川県 5, 北海道のライム病の実情 6, エコーブール抗血清 EP-95 使用状況 7, 感謝祭の夕食が原因で発生したサルモネラ症：米国 7, レジオネラ症集団発生：スペイン 8, 1994 年世界のヒトペスト 8, MRSA サーベイランス：フランス & 英国 8, インフルエンザ 1996/97 シーズン速報：米国 8, 麻痺性ポリオ：米国 9, 雪長類スプーマウイルスの職業感染：米国 9, 空港マラリア死亡例：スイス 9, 輸入マラリア：米国 10, 日本における HIV 感染の状況 (1996 年末現在) 10

本誌に掲載した統計資料は、衛生微生物技術協議会、感染性腸炎研究会、生活衛生局食品保健課検疫所業務管理室などを通じて収集された各地の地方衛生研究所、医療機関、検疫所、一部伝染病院、民間検査所など協力検査機関及び国立予防衛生研究所における検査成績を事務局において集計したものである。

<特集> サルモネラ 1994~1996

厚生省統計情報部の「食中毒統計」年報によると、細菌性食中毒患者数は、1994 年に 29,513, 1995 年は 22,329 であり、1993 年の 19,089 に比べ増加した。これらのうち、サルモネラによる患者の割合は 1993 年が 36% (6,954 名) であったのに引き続き、1994 年が 49% (14,410 名), 1995 年が 36% (7,996 名) であり、病

因物質別では依然として第 1 位を占めている。1994 年および 1995 年は事件数では腸炎ビブリオに次いで第 2 位となったが、1 事件あたりの患者数は腸炎ビブリオがそれぞれの年で 26 および 23 名であるのに対し、サルモネラの方が 70 および 45 名と多く、これは従来の傾向と変わらなかった。

図 1. ヒト由来サルモネラ年別検出状況, 1986~1995 年 (地研・保健所集計)

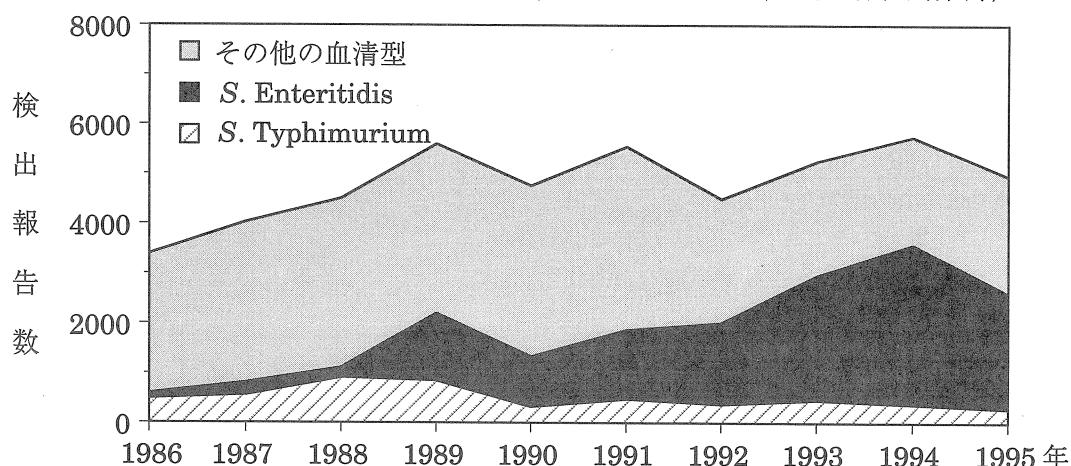


表 1. サルモネラ集団発生 (血清型別事件数: 患者数 10 名以上、病原微生物検出情報の速報による)

O 群	1993 年		1994 年		1995 年		1996 年*	
	血清型	事件数	血清型	事件数	血清型	事件数	血清型	事件数
O4	<i>S. Typhimurium</i>	11	<i>S. Typhimurium</i>	5	<i>S. Typhimurium</i>	5	<i>S. Typhimurium</i>	4
	<i>S. Haifa</i>	4	<i>S. Paratyphi B</i>	3	<i>S. Chester</i>	1	<i>S. Heidelberg</i>	3
	<i>S. Paratyphi B</i>	1	<i>S. Stanley</i>	1				
	<i>S. Stanley</i>	1						
	型不明	1	型不明	4	型不明	1		
O7	<i>S. Thompson</i>	4	<i>S. Singapore</i>	2	<i>S. Infantis</i>	5	<i>S. Montevideo</i>	2
	<i>S. Potsdam</i>	1	<i>S. Thompson</i>	1	<i>S. Montevideo</i>	2	<i>S. Singapore</i>	2
	<i>S. Virchow</i>	1	<i>S. Infantis</i>	1	<i>S. Thompson</i>	1	<i>S. Infantis</i>	1
					<i>S. Virchow</i>	1	<i>S. Virchow</i>	1
O8	型不明	2	型不明	2	<i>S. Braenderup</i>	1	<i>S. Thompson</i>	1
					型不明	1	型不明	1
	<i>S. Litchfield</i>	1	<i>S. Litchfield</i>	1	<i>S. Hadar</i>	3	<i>S. Litchfield</i>	1
			<i>S. Hadar</i>	1	<i>S. Litchfield</i>	1	<i>S. Hadar</i>	1
O9	<i>S. Enteritidis</i>	41	<i>S. Enteritidis</i>	75	<i>S. Enteritidis</i>	69	<i>S. Enteritidis</i>	84
	<i>S. Dublin</i>	1			<i>S. Dublin</i>	1		
	型不明	5	型不明	7	型不明	4	型不明	6
O3, 10			<i>S. Weltevreden</i>	3	<i>S. Weltevreden</i>	1	<i>S. Anatum</i>	1
O16	<i>S. Gaminara</i>	1					型複数分離**	1
計		75			107	97	110	

* 1996 年、速報による暫定数

** *S. Infantis* (5), *S. Tennessee* (1), *S. Enteritidis* (14), *S. Eastbourne* (3)

(2 ページにつづく)

(特集つづき)

表 2. わが国で高頻度に分離されるサルモネラ血清型 (1991~1995年)

順位	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年
1	<i>S. Enteritidis</i> 1,388	<i>S. Enteritidis</i> 1,644	<i>S. Enteritidis</i> 2,499	<i>S. Enteritidis</i> 3,202	<i>S. Enteritidis</i> 2,316
2	<i>S. Thompson</i> 670	<i>S. Typhimurium</i> 368	<i>S. Typhimurium</i> 452	<i>S. Typhimurium</i> 369	<i>S. Typhimurium</i> 279
3	<i>S. Typhimurium</i> 471	<i>S. Montevideo</i> 291	<i>S. Thompson</i> 181	<i>S. Infantis</i> 202	<i>S. Hadar</i> 192
4	<i>S. Hadar</i> 323	<i>S. Tennessee</i> 169	<i>S. Litchfield</i> 141	<i>S. Thompson</i> 154	<i>S. Infantis</i> 169
5	<i>S. Braenderup</i> 267	<i>S. Thompson</i> 162	<i>S. Infantis</i> 124	<i>S. Hadar</i> 110	<i>S. Thompson</i> 167
6	<i>S. Montevideo</i> 165	<i>S. Hadar</i> 154	<i>S. Hadar</i> 120	<i>S. Litchfield</i> 107	<i>S. Montevideo</i> 91
7	<i>S. Litchfield</i> 156	<i>S. Infantis</i> 152	<i>S. Virchow</i> 103	<i>S. Montevideo</i> 70	<i>S. Litchfield</i> 87
8	<i>S. Infantis</i> 148	<i>S. Braenderup</i> 147	<i>S. Braenderup</i> 97	<i>S. Agona</i> 63	<i>S. Braenderup</i> 80
9	<i>S. Oranienburg</i> 130	<i>S. Litchfield</i> 85	<i>S. Newport</i> 82	<i>S. Anatum</i> 62	<i>S. Anatum</i> 68
10	<i>S. Potsdam</i> 123	<i>S. Blockley</i> 66	<i>S. Typhi</i> 73	<i>S. Paratyphi B</i> 62	<i>S. Senftenberg</i> 64
11	<i>S. Tennessee</i> 119	<i>S. Agona</i> 64	<i>S. Agona</i> 61	<i>S. Braenderup</i> 61	<i>S. Newport</i> 62
12	<i>S. Agona</i> 109	<i>S. Bareilly</i> 53	<i>S. Anatum</i> 59	<i>S. Singapore</i> 54	<i>S. Agona</i> 60
13	<i>S. Virchow</i> 85	<i>S. Anatum</i> 48	<i>S. Senftenberg</i> 59	<i>S. Virchow</i> 50	<i>S. Bareilly</i> 54
14	<i>S. Cerro</i> 80	<i>S. Heidelberg</i> 44	<i>S. Bareilly</i> 57	<i>S. Newport</i> 44	<i>S. Virchow</i> 48
15	<i>S. Blockley</i> 75	<i>S. Typhi</i> 41	<i>S. Montevideo</i> 56	<i>S. Weltevreden</i> 43	<i>S. Heidelberg</i> 44
		<i>S. Virchow</i> 41			
その他	1,241	その他 956	その他 1,099	その他 1,096	その他 1,168
合計	5,550	4,485	5,254	5,749	4,949

表 3. *Salmonella Enteritidis* のファージ型分布 (集団発生事件数)

年	ファージ型																	検査事件数
	1	3	4	5	5a	6	7	8	9	9a	12	13a	14b	22	34	UT	Mix	
1990	2	-	26	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	12	-	3	46
1991	1	2	25	-	1	-	-	3	1	-	-	-	-	-	17	2	6	58
1992	35	1	48	-	-	1	-	6	9	1	-	-	-	-	6	1	2	110
1993	43	2	31	-	-	-	-	2	-	2	1	-	1	-	11	-	1	94
1994	41	-	31	1	1	-	-	2	4	-	-	2	-	3	3	4	3	95
1995	30	4	27	13	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	3	5	85
1996*	21	1	16	1	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	44
合計	175	10	206	15	2	3	1	18	14	4	1	2	1	3	50	12	15	528

* 1997 年1月31日現在受理分

(予研細菌部外来性細菌室)

UT : 既知のすべてのファージに感受性のないもの

Mix : 複数のファージ型が検出された事件

他方、全国の地研・保健所から報告されたサルモネラの検出数は、病原微生物検出情報で集計される病原菌のうちで最も多く、1986~1995年のヒト由来のサルモネラ検出数の推移をみると、1986~1989年に増加した後、多少の変動があるものの、その検出総数はほぼ横ばい状態が続いている(図1)。しかし血清型の推移では *Salmonella Enteritidis* の増加傾向と、*S. Typhimurium* およびその他の血清型検出数の減少傾向が続いている。

この傾向はサルモネラ集団発生の原因となった血清型の分布からも明らかである。1993~1996年に病原微生物検出情報に報告されたサルモネラ集団発生のうち、患者数10名以上の事件から検出された血清型は10~12種類であった。そのうち、*S. Enteritidis* による集団発生事件数は、1993年41(55%)、1994年75(70%)、1995年69(71%)、1996年84(76%)であり、増加傾向が続いていることが示された(表1)。

S. Enteritidis の増加は、わが国においてヒトから高頻度に分離された上位15サルモネラ血清型からも明白である(表2)。*S. Enteritidis* のサルモネラ検出総数に占める割合は1988年の5%から1989年の24

%への激増以来、年々徐々に増加して来た(本報 Vol. 16, No. 1 参照)。1993年に47%と高率に検出された後、1994年56%、1995年47%と推移している。

さらに、国立予防衛生研究所に送付された *S. Enteritidis* のうち集団発生事件由来の菌株のファージ型(PT)別結果は以下のとおりである(表3)。1990年~1996年の全体的な傾向としては、PT1が1992年に32%(35/110)に増加した後平均で41%の検出率を示し、PT4は1990年に57%(26/46)に急増した後平均で40%を示す一方で、PT34は1990年に26%(12/46)であったものが次第に減少し、1996年には検出されなかった。したがって、PT1 および PT4 の占める割合をあわせると1996年には84%に達し、両者のファージ型の菌株が蔓延している状態が推察される。しかしながら、散发事例および環境由来株のファージ型は多種類に及び、今後それらのファージ型の菌株が増加してくる可能性も否定できない。

S. Enteritidis の高い検出率が続く以上、その動向を知るうえでも疫学的情報を含めた詳細な情報収集が不可欠であろう。

<情報>

和歌山市の幼稚園・事業所で発生した *Salmonella* Enteritidis による大型食中毒事例

平成8（1996）年6月、和歌山市の20カ所の私立幼稚園において、園児、保母、父兄 494名および事業所 11名、計 505名の *Salmonella* Enteritidis（SE）による食中毒事例が発生した。6月12日、某幼稚園において園児 100名ほどが下痢などの症状を呈し、園を休んでいるという情報を得た。調査を進めると市内F社の給食をとっている20園のうち複数の園で同様の症状を訴える園児を確認した（表1）。

発症状況を次ページ表2に示した。初発は6月10日で大半は11～15日に発症し、ピークは11、12日で全体の55%を占めた。6月8、9日は休園日であったので、10、11日の給食が疑われた。

症状は次ページ表3に示した。6月11日以外には給食のなかったT園でも5名（1.3%）の患者が出ているので、11日の給食の中にもSEに汚染された食品が含まれていたものと思われるが、10日しか給食のなかったH園で 122名（35%）と多数の患者が見られたこと、また同じく10日しか給食のなかったF、G園でも患者がでていることから、今回の大規模集団食中毒事件の原因食は主に10日の給食にあるものと考えられた。

10日のメニューは次ページ表4のとおりで、I、II、IIIの3種がある。メニューIIIをとっている園では、患者の発生はなく、I、IIをとっている園で患者が発生していたことから、I、IIのメニューの中に原因食品があると推測した。I、IIのメニューに共通する食品の喫食状況は次ページ表5のとおりである。患者は

いずれの食品とも高率に喫食しており、この調査結果から原因食品の特定は困難であった。しかし、10日にI園であった試食会でいり卵のみを食べた園児の妹2名が発症していることから、F社に対し、いり卵の製

表1 幼稚園別患者数と喫食状況

幼稚園名	喫食者数		患者数
	6月10日	6月11日	
A 園	58	0	0
B 園	27	0	0
C 園	23	0	0
D 園	94	0	0
E 園	135	0	0
F 園	107	0	3
G 園	360	0	7
H 園	348	0	122
I 園	387	378	177
J 園	225	282	44
K 園	337	343	49
L 園	326	342	56
M 園	81	82	4
N 園	30	30	5
O 園	154	258	5
P 園	267	275	14
Q 園	4	438	0
R 園	64	63	0
S 園	0	82	0
T 園	0	381	5
合 計	3,027	2,954	491

上記以外にI園では試食会に参加した園児の妹2名と母親1名から届け出があった。園児の妹2名はいり卵しか食べていない。

表2 患者の発症日

発症日	10日	11日	12日	13日	14日	15日～	不明	合 計
発症者数	4	119	150	84	37	54	46	494

造状況を調査したところ、6月8日夕方に殻を割り、3つのバットに入れて冷蔵庫に保管し、10日午前5時ごろから30分間で80kgのいり卵を調理後、5個のプラスチック製コンテナに一時保存し、その日の昼食として各園に配達されたことがわかった。

F社の調理施設のふきとり、検食、食材および従業員の便について検査をした結果、割卵を保管したバット、いり卵の一時保存に使用したプラスチック製コンテナとまな板のふきとりおよび従業員1名の便からSEが検出された。

また、患者183名中131名の便からSEを検出した。分離されたSEのプラスミドプロファイル、ファージ型、薬剤感受性、AP-PCRのDNAタイプはすべて一致した。

以上のことから、今回の集団食中毒は卵を汚染したSEが冷蔵庫内で保管中に拡散し、調理後盛付まで一時保存したバット内で増殖したものと考えられた。

事後の7月8日～19日にかけて、治療後あるいは未治療の園児等1,390名の再検査を実施し、その結果、233名(17%)から*Salmonella*を検出した。そのうち226名(97%)はSEであった。

和歌山市衛生研究所

山本幾也 森野吉晴 金澤祐子

吐崎 修 上野美知 松川陽子

表3 患者の症状

下痢	嘔吐	腹痛	体 温 (℃)					合 計
			36	37	38	39	40～	
—	—	—	2	—	6	3	3	14
—	—	+	—	3	10	4	—	17
—	+	—	1	—	5	—	2	8
—	+	+	1	1	7	2	1	12
+	—	—	17	8	28	14	2	69
+	—	+	28	33	73	73	27	234
+	+	—	2	1	2	3	—	8
+	+	+	1	5	24	38	15	83
			52	51	155	137	50	445

症状不明 49名

表4 10日のメニュー (I II IIIの3種類)

I	II	III
*フィッシュカレー *千切りキャベツ *いり卵 *炒め煮 *ご飯またはパン 森の実ポテト 黄桃缶	*フィッシュカレー *千切りキャベツ *いり卵 *炒め煮 *ご飯またはパン ベビーパイン	クリームシチュー 青りんごゼリー パン

表5 共通する食品の喫食状況

	喫食患者数	喫食割合(%)
フィッシュカレー	314	98.4
千切りキャベツ	297	94.6
いり卵	316	99.1
炒め煮	308	96.6

有効回答数 319

<情報>

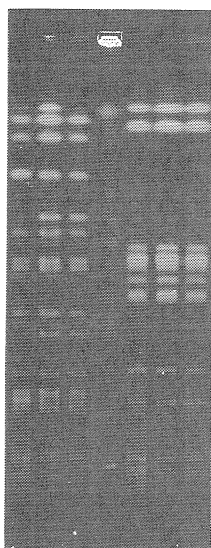
Salmonella Enteritidis による家庭内食中毒で死者の発生をみた一事例について——大阪市

1996年11月号本月報に、東京都内の *S. Enteritidis* (SE) による家庭内食中毒で死者の発生をみた事例が報告された。我々も、昨年7月に大阪市内で起きた SE による家庭内食中毒で、1名が死亡した事例を経験した。

1996年7月28日深夜、外出先から帰宅した次男(28歳)は、両親が腹痛下痢に苦しんでいるのを発見した。しかしながら、日曜日の深夜でもあり、父親(59歳)自身の「しばらく寝ておれば治る」との言葉に従って就寝した。ところが翌朝呼びかけても父親から応答がなく、母親(55歳)もきわめて重症と判断された。慌てて救急車を呼び入院させたが、父親はすでに死亡していた。母親からの聴き取り調査では、発症日は7月27日。夕刻から両名とも体が重く気分がすぐれず悪寒もあった。夜(父親10時30分頃、母親11時頃)になって嘔気、嘔吐、水様下痢などの消化器症状が始まったという。

そこで、家庭内にあった残品として26日夕食のスパゲティ、27日朝食の卵サンドイッチ、27日夕食の鯖ずしと家庭内のふき取り検体が29日に当研究所に搬入された。さらに、行政解剖で採取された胃、小腸、大腸について、それぞれの粘膜と内容物、および血液の計7検体が30日に搬入された。その結果、27日のサンドイッチと鯖ずしから SE が検出された。血液からは検出されなかったが、消化管粘膜と内容物から SE が

1 2 3 M 4 5 6



レーン 1、4 鯖ずし由来株
レーン 2、5 サンドイッチ由来株
レーン 3、6 患者(大腸粘膜)由来株
レーン 1-3、*Bln* I ; 4-6、*Xba* I ;
M、lambda ladder

純培養状に検出された。また、病院で行われた母親の検便でも SE が分離された。監察医および担当医師からの届け出を受け SE による家庭内食中毒と断定した。

食品および患者からの分離菌株の DNA を制限酵素 *Bln* I、*Xba* I を用いて消化し、パルスフィールド電気泳動法により解析した(実験条件は予研・寺嶋らの方法に準じた)。*Bln* I による消化で、鯖ずし由来株が他の2株に比べ2本のバンドを欠失しているのが認められたが、*Xba* I 処理ではその泳動パターンに差は認められなかった。

同居している次男も、26日の夕食まではほぼ両親と一緒に食事をとっているが、外出していたため27日は両親との共通食はなかった。したがって、食中毒の原因食品は27日に喫食されたものと推察された。発症日時と潜伏時間から、27日朝食の自家製卵サンドイッチが原因食として疑われたが、増菌培養でのみ検出されたことから菌数は100 CFU/g 以下と推定される。夕食に供された鯖ずしの方が菌数は多かったが(直接培養、300 CFU/g)、下痢が始まる数時間前に食しており、一般に言われるサルモネラ症の潜伏時間と合致しない。鯖ずし製造店のふき取りや食材調査でも SE は検出されなかった。鯖ずしについては、卵サンドイッチや患者から汚染され、検査されるまでの保存中に SE が増加した可能性も否定できない。このような状況から卵サンドイッチによる可能性が高いと考えられるものの、すでに消費され残されていなかった食品もあり、原因食品を特定することはできなかった。

死亡した男性が特別な基礎疾患を有していたとの報告はなく、亡くなる前日(28日午前中)も数時間家業に従事している。しかしながら、本事例も東京都の例と同様に、発症の翌々日には死亡しており、その経過は迅急性である。昨年の夏は、腸管出血性大腸菌 O157 に注意が集中していたが、SE 食中毒についても鶏卵の汚染状況の把握と菌の毒力の変化について監視を続けるとともに、消費者への徹底した啓蒙活動が必要と考えられる。

大阪市立環境科学研究所保健疫学課

西川禎一 長谷 篤 小笠原準

中村寛海 北瀬照代 石井営次 安川 章

<情報>

感染性胃腸炎患児からの SRSV ゲノムの検出——香川県

県下の感染症サーベイランス定点を受診した散発事例のウイルス起因が疑われる感染性胃腸炎患児を中心として、PCR 法で SRSV (小型球形ウイルス) ゲノムの検出を行った。

PCR 法は、グアニジンチオシアネートを用いて、RNaid 法によって RNA を抽出し、プライマーは Wang らの作製した ORF1 中の Sense 36/Antisense 35 と

月	1996											1997
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	
検体数	2	3	2	4	6	8	4	3	5	33	24	
検出数	0	1	1	2	4	6	3	1	5	21	3	

Sense 82/Antisense 81 のペアー (Single PCR) および両ペアー (Nested PCR) を使って行った。

1996年3月～1997年1月にかけて採取した糞便 (6歳以下の患児由来) 95検体 (アデノウイルス, ロタウイルス陽性糞便を前もって除いた) から47例のSRSVゲノムが確認できた。

6月に入ってから各月とも高率にウイルスゲノムを検出することができた。しかし, 1997年1月に入ってから検出率は極端に低下し, 中旬以降の感染性胃腸炎由来材料などからは検出できなくなった。

この期間中の陽性患児を年齢別にみると0歳児30検体中14例, 1～2歳児41検体中18例, 3～4歳児14検体中9例, 5～6歳児10検体中6例の分布であった。しかし激減した1月分を除いてみると, 0歳児21検体中13例, 1～2歳児29検体中17例, 3～4歳児13検体中9例, 5～6歳児8検体中5例で, 各区分でほぼ同様の検出率となった。

なお各検体とも電子顕微鏡によるウイルス粒子の検索は行っていない。

各月とも検体数が少ないため一概にはいえないが, 県下でこの時期, 上記プライマーで検出できるSRSVによる感染性胃腸炎が散発的に継続して発生し, 1997年1月に入って終息したものと考えられる。

しかし, この期間中, 県下の感染症サーベイランス患者情報による感染性胃腸炎 (ウイルス) の患者発生数は例年に較べても大きな変動はみられなかった。また施設における集団発生なども確認することはできなかった。

香川県衛生研究所

山中康代 亀山妙子 三木一男 山西重機
国立予防衛生研究所 松野重夫

<情報>

北海道のライム病の実情

本邦では1987年に最初のライム病が長野で報告されて以来, 本州中部以北から北海道といった寒冷地を中心にその報告例は増加しつつある。本邦のライム病は一般に軽症例が多いといわれているが, 症例数も約100例と少なく, その臨床像は明確に把握されていない。我々も1988年に1例目を報告して以来, すでに1996年の夏までに37例の症例を経験し, そのうち24例は皮疹部からボレリアを分離培養することに成功し

た。また本邦におけるライム病の媒介者は北海道を含めて, ほとんどすべてシュルツェマダニ (*Ixodes persulcatus*) の雌であることも確認されている。今回これらの症例の簡単なまとめを報告する。平均年齢は51歳, 男女比はほぼ1:1で, 全例にダニ刺咬の既往が明確にあり, 遊走性紅斑 (erythema migrans: EM) 出現までの期間は平均は12日であった。Stageは33例 (89%) がI期で, II期は4例 (11%) で, III期の関節炎を示す症例は認められなかった。媒介者を確認できた症例は3例で, すべてシュルツェマダニであった。37例中28例の生検皮膚組織から病原体の検出をBSK培地の使用により施行し, 24症例からボレリアの分離に成功した。主症状は37例ともに皮膚症状であり, このうち34例は典型的に遊走性紅斑 (EM) といえる皮疹であった。環状紅斑の長径は平均21cmで, 50cmを超える例もある。病原体を確認できた24例中23例は長径5cm以上の紅斑であった。神経症状としては2例 (5.4%) に顔面神経麻痺が見られた。関節痛は8例 (22%) に認められ, そのうち6例は罹患関節がダニ刺咬部に解剖学的に近い部位である。血清学的診断は37例中22例に施行した。その内訳はELISA法6例, MCAT法4例, FASTLYME法10例, IFA法3例, Western blot法4例である。このうち17例 (77%) は血清学的にも陽性結果が得られた。ダニ刺咬後3週間以降であればELISAやFASTLYMEなどいずれも有用であったが, 2週間以内のごく早期の症例では全例陰性であった。また, 血清学的に陰性の時期であっても4症例は皮疹部からボレリア分離が可能であった。これら分離されたボレリアはほとんどが *Borrelia garinii*, 一部 *B. afzelii* であった。

マダニ刺咬症のうち何%にライム病が発症するかは現在不明である。しかし遠軽厚生病院皮膚科では1992～1993年の2年間に30例がマダニ刺咬症で受診し, そのうち3例 (10%) にEM所見を認めた。そこで1995年の1年間に当科関連施設や寄生虫学教室にダニの同定やライム病検索の依頼を受けたマダニ刺咬症について検討してみた。マダニ刺咬症は全部で78例あり, ライム病 (EM) が見られたのは9例 (12%) であった。マダニ刺咬発生から受診までの日数が分かった60例で検討したところ, 非ライム病症例はほとんど3日以内に受診し, ライム病症例は2週間以降に受診したのが多かった。1996年も同様の調査を行ったところ, マダニ刺咬症92例中明確にライム病 (EM) と診断し得たものが9例 (9.8%) であった。これらの結果からボレリア汚染地域である北海道道北地方においては, マダニ刺咬症の約10%にライム病が発症することになるが, さらなる検討を要する。

旭川医科大学皮膚科学講座 橋本喜夫

旭川医科大学寄生虫学講座 宮本健司

<情報>

エコープール抗血清 EP-95 の使用状況について

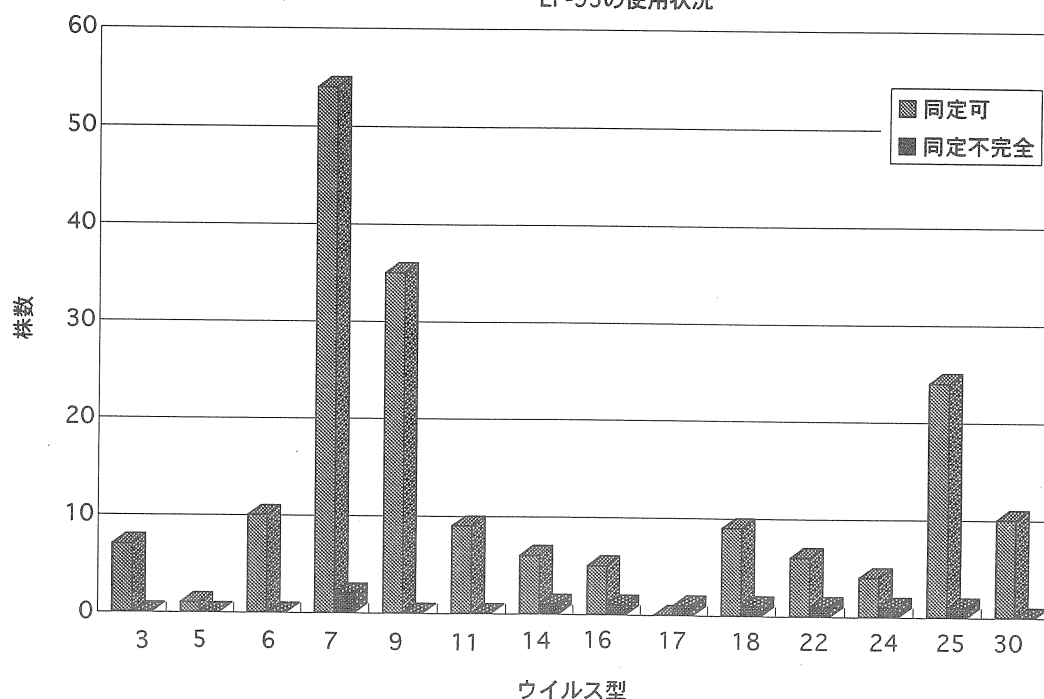
本月報 Vol. 17, No. 11 でお知らせしたエコーウイルス同定用抗血清プール EP-95 のその後の使用状況をお知らせする。これまでに21機関で使用され、195の分離株の同定に用いられた。このうち同定されたのは180株で、9株は同定されにくい株であった。それぞれの型別は図に示した。分離数の多かったエコーウイルス (E) 7型, E9やE25の同定には、おおむね有効なプール抗血清であったと考えられる。8つの型については数は少ないものの同定不完全な株が検出されたが、今後その理由を含めて検討すべきである。また、

2つのプールで中和されるのではなく、3つ以上で中和されるとか、CPEの出現のしかたがウイルスコントロールに比べ弱いから多少抗原抗体反応があるらしい、といった株の報告も6株についてあった。これらがエコーウイルスかどうかは別として、非特異反応の有無には注意を払う必要がある。いずれにしても、EP-95がより多くの機関で使用され、良い点と改良点を早く見つけだしていただくことを願っている。そしてできるだけ早い時期に、エンテロウイルスのサーベイランスに貢献できるプール抗血清としたいと考えている。

エンテロウイルスレファレンスセンター

鈴木サヨ子 野口有三 栄 賢司 春木孝祐
森 正俊 福吉成典 萩原昭夫

EP-95の使用状況



<外国情報>

感謝祭の夕食が原因となって発生したサルモネラ症、1995——米国・ネバダ州

1995年11月23日の感謝祭の夕食に参列した6人と、その残りを2日後に食した1人が腹痛、嘔吐および下痢の症状を呈した。脱水症状で2人が入院、1人が昏睡状態に陥り重度の脱水と敗血症で死亡した。これら3人の便からファージ型13aの *Salmonella* Enteritidis (SE) が検出された。クラーク郡当局の調査によると、この事例で共通に食されたターキーは以下のとおり調理されていた。11月22日に13ポンドの冷凍ターキーを解凍し、臓物を除いて一晩冷蔵庫に保存した。翌日、ターキーの一部はまだ凍っていたが、心、肝および砂嚢と3個の生卵を混ぜてなかに詰め、オーブンで調理し夕食に供した。ターキーの内部までは十分加熱され

ていなかった。発症した7人に共通する食物はターキーだけだったが、菌分離に供する残りは無かった。米国では毎年4,500万羽のターキーが感謝祭で食されると見積もられ、ターキーおよび詰め物の不十分な調理によるサルモネラ症の発生が示唆されている。農務省からは詰め物をしてターキーを食する場合にはオーブンの設定温度を163℃以上、ターキー内部の温度が82℃以上であることが推奨されている。

米国では毎年推定2～4百万人のサルモネラ患者が発生し、少なくとも500人が死亡している。これらの感染中約40,000人から菌分離・血清型別がなされサルモネラサーベイランスシステムによってCDCに報告されている。1995年に血清型別された菌分離例40,720中SEが25%を占め、最も多かった。

(CDC, MMWR, 45, No. 46, 1016, 1996)

スペインにおけるレジオネラ症の集団発生

1996年9月前半にマドリッド近郊の町 Alcalá de Henares で多数の町民が肺炎で入院する集団発生があった。10月18日までに197例の非定型肺炎患者が入院し、11人が死亡した。患者平均年齢は68歳で、3分の2以上は60歳以上、約3分の2は男性、町の北部からの症例がほとんどであった。10月18日までに49例(6例の菌培養陽性と、43例の血清診断)がレジオネラ症と確定した。臨床分離菌6株と6つの冷却塔、2つの貯水タンクからの分離菌がすべて *Legionella pneumophila* 血清群1、亜群 Pontiac と同定された。発症地域のすべての冷却システムが止められ、全給水敷設網が塩素消毒された。町北部の冷却塔と高温飲料水タンクが清掃、消毒された。集団発生源の疫学調査が引き続きなされている。この集団発生はヨーロッパで報告された最大のものであろう。英国で最大のものは1985年 Stafford 病院の68例22人死亡、1988年ロンドン放送局の70例3人死亡である。

(CDSC, CDR, 6, No. 45, 391, 1996)

1994年世界のヒトベスト

1994年にWHOに報告されたヒトベストは13カ国から2,935例(死亡例212, 致死率7.2%)であった。患者数、死亡例数は1993年(2,194例, 死亡例190, 致死率8.7%)および、過去10年間の平均値(1,327例, 死亡例141, 致死率10.3%)を超えた。地域別にみると、一番多いのがアフリカ6カ国の総数1,269例(全世界の43%), 死亡例106(全世界の50%)で、タンザニア(444例, 死亡例50), ジンバブエ(同392, 28), モザンビーク(同216, 3), マダガスカル(同126, 15), ザイル(同82, 10), マラウイ(同9, 0)であった。次に多いのがアジアの4カ国総計1,228例(全世界の42%), 死亡例85(全世界の40%)で、インド(876例, 死亡例54), ベトナム(同339, 27), 中国(同7, 4), ミャンマー(同6, 0)。アメリカ大陸3カ国は総計438(全世界の15%), 死亡例21(全世界の9.9%)で、ペルー(420例, 死亡例19), 米国(同14, 2), ブラジル(同4, 0)であった。

1980~94年の15年間に24カ国から患者18,739例, 死亡例1,852が届けられた。1990~94年の5年間の発生件数は世界的に明らかな増加を示し、この15年間の発生件数の54%に当たる。ほぼ毎年ヒトベストを報告している国は9カ国(マダガスカル, タンザニア, ブラジル, ペルー, 米国, 中国, モンゴル, ミャンマー, ベトナム)で、他の国は散発的あるいは集発的に発生したり、しなかったりを繰り返す。明らかに何年間も休止状態であった地域で動物ベストが再発生しているのが観察されたり、ここ10年間のヒトベスト事例は齧歯類のベストとほとんど常に関係があった。10年以上ヒトベストの発生が無かった地域で、突然齧歯類

や人間に爆発的な発生が起こることもある。1994年に15~30年間ヒトベストの発生が報告されていなかった国マラウイ、モザンビーク、インドなどに発生があったのがこの例である。

(WHO, WER, 71, No. 22, 165, 1996)

MRSA サーベイランス——フランス、英国

フランス・ロワール地方: 1993年11月~1994年1月の間にこの地方の25の施設における入院患者からのMRSAの分離頻度は平均すると0.45%であったが、老人科、内科、リハビリテーション部からの分離頻度はそれぞれ19%, 16%, 10%と高値であった。検体別にみると、膿、尿、血液、喀痰からの分離頻度がそれぞれ29%, 25%, 10%, 4.0%であった。MRSAが分離されたうち、51%の患者は自宅からの入院、30%の患者は同じ病院内での転科、19%は転院してきた患者であった。自宅からの入院患者の22%は過去1年以内の入院歴はなく、外来でMRSA保菌状態になったと考えられた。1,000床以上の大規模病院からの分離頻度は小規模病院より高い値を示した。手洗い、患者隔離、手袋とガウンの使用は部分的にしか行われておらず、スタッフの教育、手洗い施設の整備、使い捨て用品の供給が必要であると考えられた。

英国・イングランドとウェールズの流行: ファージタイピング、抗生剤耐性パターンから判別したMRSA流行株 EMRSA-3, EMRSA-15, EMRSA-16が分離された病院数は、1993年1月には3株とも20以下であったが、1995年6月には、それぞれ約20, 90, 80であった。

英国・スコットランド, 1983~1995年: 1983年には少数であったスコットランドにおけるMRSAの分離株数は、1995年には第46週で513株となった。1991年には9%であった血液、喀痰からのMRSA分離頻度は1994年末には17%にまで増加した。

(WHO, WER, 71, No. 10, 73, 1996)

インフルエンザ, 1996/97 シーズン (速報) —米国

米国でのインフルエンザは1996年11月半ばから増加し、12月22日~1997年1月4日にピークとなり、1月5~18日に減り始めた。今季、全州で実験室診断によってインフルエンザA, Bが確認されている。1996年9月29日~1997年1月18日のインフルエンザサーベイランスによると、米国内のWHO協力機関で20,754検体の呼吸器ウイルス検査が実施され、4,063(20%)がインフルエンザで、うちA型が3,959(97%), B型が104(3%)であった。インフルエンザウイルスの分離数、分離率ともに11~12月に増加し、12月28日~1月4日に分離率は31%に達した後、1月5~11日25%, 1月12~18日18%に減少した。B型は12月に増加し、12月29日~1月18日に報告された1,376株中68(5%)であった。抗原分析をおこなったA(H3N2)

105株はすべて A/Wuhan/359/95株および A/Nanchang/933/95株と、B型5株は B/Beijing/184/93株と類似していた。

インフルエンザ集団発生は小児や若い成人間でも報告されたが、大部分は老人ホームで起こった。

(CDC, MMWR, 46, No. 4, 76, 1997)

麻痺性ポリオ, 1980~1994 — 米国

最近免疫勧告委員会 (ACIP) が、米国におけるルーチンのポリオ接種について、2回の不活化ワクチン (IPV) 投与のあと2回の生ワクチン (OPV) 投与を勧告した。この変更は次の3つの理由からである。1) 土着の野生ポリオは、米国では1979年来見つからない、2) グローバルなポリオ根絶の進展により野生ポリオ侵入のリスクは軽減している、3) ワクチン関連ポリオ麻痺が依然として発生している。ACIPではこの新しいスケジュールを1997年早期から開始するよう勧めている。このレポートは1980~94年に米国で報告された麻痺性ポリオ疫学のまとめおよび1995~96年の暫定報告である。これらは、ワクチン関連麻痺のリスクは依然として続くことを示す。

疫学: 1980~94年に133例のポリオ麻痺確認例が報告された。うち125例 (94%) がOPV投与によるものである (年平均8例)。6例が輸入例、2例が未特定。125例のうち、49例 (39%) は免疫的に正常なワクチン被投与者、46例 (37%) はOPV被投与者との接触者である。1995年は6例、96年には1例報告あり。症例数のトレンドを解析するため3年ごとに区切ったところ、発生数はそれぞれ比較的一定であった (平均13~16例の範囲)。また免疫的に正常な症例群の数は一定であるが、接触者の症例は1980~82年から1992~94年の間に顕著に減少している (15から4例へ)。

ワクチン関連麻痺のリスク予測: 1980~94年に出荷された推計3億300万のOPVから推計すると、ワクチン関連麻痺の発生する全般的リスクは240万あたり1例である。第1回目の投与により75万人の小児に1例の割合で発生する。5,780万人の小児が1980~94年に生まれた。これらがすべてOPV投与をうけたと仮定すると、免疫的に正常な児140万の第1回投与に1例の発生となる。これに免疫不全の小児を加えると120万に1例である。ウイルスはワクチン関連麻痺125例中89例から分離された。

新しいIPV/OPVのポリオ予防接種法は、ワクチン関連麻痺を減少させ個々の、および集団の免疫を高いレベルで維持し、野生ポリオの侵入による集発を防ぐと期待される。初回のOPVが投与される生後12~18カ月までにIPVを2回投与することは、免疫的に正常な小児に高い抗体価を付与し、ワクチン関連麻痺の発生を防止する。さらに接触感染例を減少させるであろう。またOPV投与を生後12カ月まで遅らせることで

免疫不全の診断に時間的余裕を与える。1980年以後、接触者の間のワクチン関連麻痺のリスクが減少傾向にある。これはまだ確定的ではないが、1960年代末に小児に強制的にワクチン投与を行ったことで、免疫をもたない親や成人の比率が少ないことによるかもしれない。しかしながら、これらの年代のポリオ感受性は変わっていないという報告もある。

(CDC, MMWR, 46, No. 4, 79, 1996)

霊長類スプーマウイルスの職業感染, 1996 — 米国

医学研究に使用される霊長類には、SIV、サルスプーマウイルス (SFV)、STLV、サルDタイプレトロウイルスなど様々なレトロウイルスが感染していることがある。1993年サルを扱う人にSIV感染が見つかった以来、CDCとNIHはこのような職業の人の血清調査を行ったところ、427の血清中、3検体 (0.6%) にSIV陽性が見つかった。この結果をうけて、1993年以後、CDCはサーベイランスと健康状態に関する自発的なカウンセリングを行っている。1996年11月20日までに、231名のこのような職業の人の血清中のSFVに対する抗体を調べた結果、3例 (1.3%) が陽性であった。このレポートはこの3名の症例報告であるが、SFVは霊長類からヒトへ持続感染をおこし、病気を起こすかは分からないがヒトの間で伝播する可能性がある。

実験室所見: IFA, WB法いずれでもこの3名の血清でSFV血清型3に対し陽性結果が出た。PCR法でプロウイルスDNAからSFV間で保存されたポリメラーゼ遺伝子の2つの領域を増幅、この配列を調べたが3検体はいずれも異なっていた。しかし、霊長類由来スプーマウイルスとは80%以上のホモロジーを示した。末梢血との共培養によりウイルス分離を試みたが3例中1例より上清中にRT活性を証明、また上清を培養細胞に接種したところCPEを示した。他の2例については研究続行中。3名とも健康状態は良好で、3名中2名の配偶者とは20年以上避妊具を使っていないが血清PCRとも陰性、他の1名については血清材料は得られていない。(CDC, MMWR, 46, No. 6, 129, 1997)

空港マラリア: 死亡例 — スイス

熱帯熱マラリアに感染した54歳の1男性が1996年7月16日、ジュネーブの病院で死亡した。病状はインフルエンザ様症状で始まり、発熱、振顫により入院した。痙攣発作、ショック症状、貧血、血小板減少症と腎不全が見られた。静脈内キニーネの治療にもかかわらず来院2日後に死亡した。調査の結果、患者には旅行や輸血、薬物濫用のようなリスクはなかった。患者が生活していたのはジュネーブ空港から約2.5kmの所で、飛行機で流行地からもたらされた感染蚊に刺されたことが示唆された。

空港マラリアはヨーロッパでも知られているが非常

にまれで、スイスでは1970～72年に4例がチューリッヒ近くで、1989年夏に5例がジュネーブで発見されている。医師は患者が熱帯地域への旅行をしていなくてもマラリアの可能性を警戒すべきで、原因不明の発熱がある時、特に空港近くに住んでいる人々や空港を通過する人々にはマラリア原虫についての検査を行なうべきである。(WHO, WER, 71, No. 47, 358, 1996)

輸入マラリア, 1993～94——米国・ケンタッキー州, メリーランド州

1940年代後半に土着マラリアの伝播が抑えられて以来、米国のマラリアサーベイランスは続けられている。症例の多くは外国旅行中あるいはマラリア流行国に住んだ人々の間で起っている。1993～94年にケンタッキーおよびメリーランド州で患者報告が増加した。

ケンタッキー州: 1993～94年に16例のマラリア患者が報告された。これは1991～92年に報告された患者の2倍である。多くはアフリカ(44%), 中央アメリカ(38%), アジア(19%)で感染している。6人中3人のマラリア感染米国民は暴露期間中に化学予防薬を使用していたが、CDC推奨薬剤は使用していなかった。化学予防薬を用いていなかった3人中2人はその必要性を知らず、1人は知っていたが使用していなかった。

メリーランド州: 1994年に83例が報告され、1993年の57例より増加した。旅行地が判明した者の64%はアフリカでの感染であった。米国民37人中13人(35%)は暴露期間中に化学予防薬を使用していた。化学予防薬についての知識のあった米国民9人中2人(22%)がCDC推奨の薬剤を使っていた。

米国では1993年に1,275人のマラリア患者がCDCに報告されている。これは1992年の910人より40%の増加である。増加の多くはソマリアからの帰還軍人の症例である。患者の多くはアフリカ(58%), アジア(20%), 中央アメリカおよびカリブ海(11%)で感染していた。8人の死亡者は熱帯熱マラリアによる。化学予防薬の使用についての知識があった482人の米国民マラリア患者のうち253人(52%)は暴露期間中に化学予防薬を使用していた。使用薬剤について知識のあった225人中109人(48%)は推奨薬剤を使用していた。これらの患者の57人(52%)は三日熱あるいは卵形マラリア感染の再発である。投薬方法が確かでない34例中11人(32%)はメフロキンの推奨量を使用しており、23例(68%)は使用していなかった。推奨投薬法に従った11例中5人は熱帯熱マラリア感染であり、残りの6人は四日熱マラリアと診断された。総合的にはマラリアに感染した米国民の84%は化学予防薬を使用しなかったか、あるいは正しく使用していなかった。(CDC, MMWR, 45, No. 43, 944, 1996)

(担当: 予研・寺嶋, 倉, 塚野, 和田, 影井, 稲田, 山下)

<情報>

わが国における HIV 感染の状況について

(平成8年12月末現在)

厚生省エイズ結核感染症課

1. エイズ患者および HIV 感染者の状況(法施行前・後の合計)

1. 現状(表1)

(1) 平成8年12月末までに報告された累計患者数は1,447人であり、その感染原因別の内訳は、異性間の性的接触331人、同性間の性的接触229人、静注薬物濫用9人、母子感染8人、凝固因子製剤641人、その他21人、不明208人である。

(2) 累計 HIV 感染者数は3,965人であり、その内訳は、異性間の性的接触1,035人、同性間の性的接触451人、静注薬物濫用12人、母子感染17人、凝固因子製剤1,872人、その他41人、不明537人である。

(3) 累計死亡者数は879人であり、その内訳は、異性間の性的接触153人、同性間の性的接触127人、静注薬物濫用4人、母子感染7人、凝固因子製剤456人、その他14人、不明118人である。

2. 年次推移(表2)

(1) 平成8年中に報告されたエイズ患者および HIV 感染者(以下「患者・感染者」という)は、610人であり、前年に引き続き増加傾向を示した。なお、年次報告としては、過去最多であった。

(2) 性別では、男性については平成2年から増加傾向で推移しており、平成8年は前年の335人から455人へと増加した。女性については、平成4年の291人を頂点に平成7年まで減少を続けていたが、平成8年は再び増加に転じ、155人であった。

(3) 国籍別では、日本人男性患者・感染者が全報告数の57%と最も多く、次いで、外国人男性が18%、外国人女性が16%、日本人女性が9%であった。

表1. エイズ患者・HIV感染者・死亡者の感染原因別累計数
(平成8年12月末現在) 単位: 人

	患 者	感 染 者	死 亡 者
異性間の性的接触	331(88)	1,035(532)	153(26)
同性間の性的接触	229(35)	451(68)	127(12)
静注薬物濫用	9(5)	12(8)	4(2)
母子感染	8(2)	17(7)	7(1)
凝固因子製剤*	641(...)	1,872(...)	456(...)
その他	21(6)	41(10)	14(1)
不 明	208(94)	537(436)	118(30)
合 計	1,447(230)	3,965(1,061)	879(72)

* 平成8年11月末現在における「発症予防・治療に関する研究班」からの報告による数字である。なお、「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律」施行後(平成元年2月17日以降)、凝固因子製剤が原因と推定されるものは、法による報告の対象から除外されている。

また、感染者 1,872名の中には患者 641名がふくまれている。

() : 外国人再掲

「同性間の性的接触」には男性両性愛者を含む

(4) 感染原因別では、男性では、同性間の性的接触によるものが、再び増加に転じており、特に日本人男性については、平成8年の報告が135人と、異性間の性的接触によるもの144人と並んで、主要な感染経路となっている。

(5) 患者・感染者の年次推移を患者、感染者別でみると、感染の拡大に伴って、患者報告数は、増加傾向を続けており、平成8年は、前年の169人から39%増加し235人の報告があった。

3. 報告地域 (表3: 本月報 Vol.18, No.2, p.12参照)

患者・感染者 (法施行前・後の累計) を都道府県別

にみると、すべての都道府県から報告されているが、そのうち、68.9%が関東地方からの報告となっている。

II. 法施行後の患者・感染者の状況

1. 性別構成 (表4)

「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律」(以下「法」という。)施行後(平成元年2月17日以降)平成8年末までに報告された患者・感染者2,760人中、男性は1,733人(62.8%),女性は1,027人(37.2%)である。このうち、日本人では1,504人中、男性1,289人(85.7%),女性215人(14.3%)と男性が多いが、これに対して、外国人では1,256人中、男性444人(35.4

単位: 人

表2-1 患者・感染者の性・感染原因別年次推移

		S 60	S 61	S 62	S 63	H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	累 計
総	異性間の性的接触	0	0	26	18	34	34	123	253	170	194	227	287	1,366
	同性間の性的接触	6	4	33	25	40	30	42	58	61	122	108	151	680
	静注薬物濫用	0	0	0	0	1	2	3	3	2	3	2	5	21
	母子感染	0	0	0	0	0	3	1	1	4	4	3	9	25
	その他	0	1	8	7	6	6	1	7	6	6	5	9	62
数	不 明	0	0	2	1	6	22	68	171	120	105	101	149	745
	合 計	6	5	69	51	87	97	238	493	363	434	446	610	2,899
男	異性間の性的接触	0	0	16	9	20	16	46	89	83	105	153	194	731
	同性間の性的接触	6	4	33	25	40	30	42	58	61	122	108	151	680
	静注薬物濫用	0	0	0	0	1	2	3	3	2	3	2	5	21
	母子感染	0	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	5	11
	その他	0	1	4	3	3	1	1	5	2	4	5	7	36
性	不 明	0	0	0	1	4	17	23	46	56	55	67	93	362
	合 計	6	5	53	38	68	66	116	202	207	290	335	455	1,841
女	異性間の性的接触	0	0	10	9	14	18	77	164	87	89	74	93	635
	同性間の性的接触	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	静注薬物濫用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	母子感染	0	0	0	0	0	3	0	0	1	3	3	4	14
	その他	0	0	4	4	3	5	0	2	4	2	0	2	26
性	不 明	0	0	2	0	2	5	45	125	64	50	34	56	383
	合 計	0	0	16	13	19	31	122	291	156	144	111	155	1,058

注: 「同性間の性的接触」には男性両性愛者を含む。

表2-2 日本人再掲

単位: 人

		S 60	S 61	S 62	S 63	H 元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	累 計
総	異性間の性的接触	0	0	20	14	25	17	51	88	79	116	149	187	746
	同性間の性的接触	5	2	25	18	26	22	32	48	55	111	98	135	577
	静注薬物濫用	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	2	3	8
	母子感染	0	0	0	0	0	3	0	1	3	1	1	7	16
	その他	0	1	7	7	6	5	1	5	6	3	0	5	46
数	不 明	0	0	2	1	3	9	8	19	39	35	35	64	215
	合 計	5	3	54	40	60	58	93	161	182	266	285	401	1,608
男	異性間の性的接触	0	0	12	7	14	11	35	73	61	82	123	144	562
	同性間の性的接触	5	2	25	18	26	22	32	48	55	111	98	135	577
	静注薬物濫用	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	2	3	8
	母子感染	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	5	9
	その他	0	1	3	3	3	1	1	3	2	1	0	5	23
性	不 明	0	0	0	1	2	9	7	19	34	31	32	53	188
	合 計	5	3	40	29	45	45	76	144	155	225	255	345	1,367
女	異性間の性的接触	0	0	8	7	11	6	16	15	18	34	26	43	184
	同性間の性的接触	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	静注薬物濫用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	母子感染	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	1	2	7
	その他	0	0	4	4	3	4	0	2	4	2	0	0	23
性	不 明	0	0	2	0	1	0	1	0	5	4	3	11	27
	合 計	0	0	14	11	15	13	17	17	27	41	30	56	241

注: 「同性間の性的接触」には男性両性愛者を含む。

%), 女性812人(64.6%)と、女性の割合が高くなっている。

2. 感染原因(表5)

法施行後に報告された患者・感染者を感染原因別にみると、異性間の性的接触が最も多く全体の47.8%

占め、ついで同性間の性的接触が22.1%となっている。

これを性・国籍別にみると、日本人男性では、患者・感染者1,289人のうち、異性間の性的接触による感染が543人(42.1%), 同性間の性的接触による感染が528人(41%)とほぼ同数であるが、外国人男性では、

表2-3 外国人再掲

単位:人

		S60	S61	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	累 計
総 数	異性間の性的接触	0	0	6	4	9	17	72	165	91	78	78	100	620
	同性間の性的接触	1	2	8	7	14	8	10	10	6	11	10	16	103
	静注薬物濫用	0	0	0	0	1	0	2	3	2	3	0	2	13
	母子感染	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	2	2	9
	その他	0	0	1	0	0	1	0	2	0	3	5	4	16
	不 明	0	0	0	0	3	13	60	152	81	70	66	85	530
	合 計	1	2	15	11	27	39	145	332	181	168	161	209	1,291
男 性	異性間の性的接触	0	0	4	2	6	5	11	16	22	23	30	50	169
	同性間の性的接触	1	2	8	7	14	8	10	10	6	11	10	16	103
	静注薬物濫用	0	0	0	0	1	0	2	3	2	3	0	2	13
	母子感染	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	その他	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3	5	2	13
	不 明	0	0	0	0	2	8	16	27	22	24	35	40	174
	合 計	1	2	13	9	23	21	40	58	52	65	80	110	474
女 性	異性間の性的接触	0	0	2	2	3	12	61	149	69	55	48	50	451
	同性間の性的接触	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	静注薬物濫用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	母子感染	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	7
	その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
	不 明	0	0	0	0	1	5	44	125	59	46	31	45	356
	合 計	0	0	2	2	4	18	105	274	129	103	81	99	817

注:「同性間の性的接触」には男性両性愛者を含む。

表2-4 患者数再掲

単位:人

		S60	S61	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	累 計
総 数	異性間の性的接触	0	0	5	7	3	8	9	21	34	46	80	118	331
	同性間の性的接触	6	4	8	10	8	10	18	14	16	45	40	50	229
	静注薬物濫用	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	4	9
	母子感染	0	0	0	0	0	1	1	0	3	2	0	1	8
	その他	0	1	1	1	2	2	0	1	2	4	2	5	21
	不 明	0	0	0	1	3	9	10	15	30	37	46	57	208
	合 計	6	5	14	19	16	31	38	51	86	136	169	235	806
男 性	異性間の性的接触	0	0	1	4	3	7	9	20	26	39	61	102	272
	同性間の性的接触	6	4	8	10	8	10	18	14	16	45	40	50	229
	静注薬物濫用	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	4	9
	母子感染	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	1	5
	その他	0	1	0	1	1	1	0	1	1	2	2	4	14
	不 明	0	0	0	1	3	9	10	14	25	31	37	41	171
	合 計	6	5	9	16	15	28	38	49	72	119	141	202	700
女 性	異性間の性的接触	0	0	4	3	0	1	0	1	8	7	19	16	59
	同性間の性的接触	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	静注薬物濫用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	母子感染	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3
	その他	0	0	1	0	1	1	0	0	1	2	0	1	7
	不 明	0	0	0	0	0	0	0	1	5	6	9	16	37
	合 計	0	0	5	3	1	3	0	2	14	17	28	33	106

注:「同性間の性的接触」には男性両性愛者を含む。

表4 患者・感染者の国籍・性別報告数(法施行後累計)

	総 数		日 本 人		外 国 人	
	感染者数 (人)	構成割合 (%)	感染者数 (人)	構成割合 (%)	感染者数 (人)	構成割合 (%)
総 数	2,760	100.0	1,504	100.0	1,256	100.0
男 性	1,733	62.8	1,289	85.7	444	35.4
女 性	1,027	37.2	215	14.3	812	64.6

患者・感染者444人のうち異性間の性的接触によるものが162人(36.5%),同性間の性的接触による感染が81人(18.2%)となっており,異性間の性的接触による感染が多い。

女性においては,異性間の性的接触によるものが,日本人患者・感染者215人のうち168人(78.1%),外国人812人のうち446人(54.9%)となっている。

表5 患者・感染者の性・国籍・感染原因別報告数(法施行後累計)

		総 数		日 本 人		外 国 人	
		感染者数 (人)	構成割合 (%)	感染者数 (人)	構成割合 (%)	感染者数 (人)	構成割合 (%)
総 数	異性間の性的接触	1,319	47.8	711	47.3	608	48.4
	同性間の性的接触	609	22.1	528	35.1	81	6.4
	静注薬物濫用	21	0.8	8	0.5	13	1.0
	母子感染	25	0.9	16	1.1	9	0.7
	その他	45	1.6	30	2.0	15	1.2
	不 明	741	26.8	211	14.0	530	42.2
	合 計	2,760	100.0	1,504	100.0	1,256	100.0
男 性	異性間の性的接触	705	40.7	543	42.1	162	36.5
	同性間の性的接触	609	35.1	528	41.0	81	18.2
	静注薬物濫用	21	1.2	8	0.6	13	2.9
	母子感染	11	0.6	9	0.7	2	0.5
	その他	27	1.6	15	1.2	12	2.7
	不 明	360	20.8	186	14.4	174	39.2
	合 計	1,733	100.0	1,289	100.0	444	100.0
女 性	異性間の性的接触	614	59.8	168	78.1	446	54.9
	同性間の性的接触	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	静注薬物濫用	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	母子感染	14	1.4	7	3.3	7	0.9
	その他	18	1.8	15	7.0	3	0.4
	不 明	381	37.1	25	11.6	356	43.8
	合 計	1,027	100.0	215	100.0	812	100.0

注:「同性間の性的接触」には男性両性愛者を含む。

表6-1 患者・感染者の性・年齢階級別報告数(法施行後累計)

	総 数		男 性		女 性	
	感染者数 (人)	構成割合 (%)	感染者数 (人)	構成割合 (%)	感染者数 (人)	構成割合 (%)
20歳未満	122	4.4	19	1.1	103	10.0
20～29	1,154	41.8	449	25.9	705	68.6
30～39	715	25.9	567	32.7	148	14.4
40～49	462	16.7	427	24.6	35	3.4
50歳以上	299	10.8	268	15.5	31	3.0
不 明	8	0.3	3	0.2	5	0.5
合 計	2,760	100.0	1,733	100.0	1,027	100.0

表6-2 日本人再掲

	総 数		男 性		女 性	
	感染者数 (人)	構成割合 (%)	感染者数 (人)	構成割合 (%)	感染者数 (人)	構成割合 (%)
20歳未満	34	2.3	17	1.3	17	7.9
20～29	369	24.5	273	21.2	96	44.7
30～39	414	27.5	365	28.3	49	22.8
40～49	396	26.3	373	28.9	23	10.7
50歳以上	289	19.2	259	20.1	30	14.0
不 明	2	0.1	2	0.2	0	0.0
合 計	1,504	100.0	1,289	100.0	215	100.0

表6-3 外国人再掲

	総 数		男 性		女 性	
	感染者数 (人)	構成割合 (%)	感染者数 (人)	構成割合 (%)	感染者数 (人)	構成割合 (%)
20歳未満	88	7.0	2	0.5	86	10.6
20～29	785	62.5	176	39.6	609	75.0
30～39	301	24.0	202	45.5	99	12.2
40～49	66	5.3	54	12.2	12	1.5
50歳以上	10	0.8	9	2.0	1	0.1
不 明	6	0.5	1	0.2	5	0.6
合 計	1,256	100.0	444	100.0	812	100.0

3. 年齢構成 (表6, 表7, 表8)

法施行後に報告された患者・感染者の年齢構成をみると、20歳代と30歳代で全体の67.7%を占めている。

性別でみると、男性では、最も多いのが30歳代で32.7%を占め、20歳代および40歳代がそれぞれ25.9%、24.6%を占めている。これに対して、女性では、20歳代が68.5%を占めており、より若い世代に感染が集中している。

また、これを感染原因別にみると、男性では異性間の性的接触によるものが最も多いのは、30歳代であり、同性間の性的接触によるものは、20歳代、30歳代がほぼ同数である。また、女性では、異性間の性的接触に

よるものは20歳代が最も多い。

さらに、年齢構成について年次推移をみると、どの年齢階級も増加しているが、ここ数年、40歳代の患者・感染者が全体に占める割合が若干高くなっている。

4. 感染地域 (表9, 表10)

異性間の性的接触について感染地域をみると、日本人では、国内での感染が海外での感染よりも多く、近年、その傾向は強くなっている。また、外国人では、男性においては海外での感染が多いが、女性においては、国内での感染と海外での感染が同数で報告されている。同性間の性的接触については、国内における感染が多い。

表7-1 患者・感染者の性・感染原因・年齢階級別報告数(法施行後累計)

単位:人

		20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	不 明	合 計
総 数	異性間の性的接触	66	574	329	203	140	7	1,319
	同性間の性的接触	3	188	185	165	68	0	609
	静注薬物濫用	0	10	5	4	2	0	21
	母子感染	25	0	0	0	0	0	25
	その他	1	16	10	10	8	0	45
	不 明	27	365	185	80	81	3	741
	合 計	122	1,153	714	462	299	10	2,760
男 性	異性間の性的接触	4	152	244	184	120	1	705
	同性間の性的接触	3	188	185	165	68	0	609
	静注薬物濫用	0	10	5	4	2	0	21
	母子感染	11	0	0	0	0	0	11
	その他	1	6	9	4	7	0	27
	不 明	0	93	124	70	71	2	360
	合 計	19	449	567	427	268	3	1,733
女 性	異性間の性的接触	62	422	85	19	20	6	614
	同性間の性的接触	0	0	0	0	0	0	0
	静注薬物濫用	0	0	0	0	0	0	0
	母子感染	14	0	0	0	0	0	14
	その他	0	10	1	6	1	0	18
	不 明	27	272	61	10	10	1	381
	合 計	103	704	147	35	31	7	1,027

注:「同性間の性的接触」には男性両性愛者を含む。

表7-2 日本人再掲

単位:人

		20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	不 明	合 計
総 数	異性間の性的接触	14	175	204	179	139	0	711
	同性間の性的接触	3	162	151	148	64	0	528
	静注薬物濫用	0	1	3	3	1	0	8
	母子感染	16	0	0	2	0	0	18
	その他	1	8	5	7	7	0	28
	不 明	0	23	51	57	78	2	211
	合 計	34	369	414	396	289	2	1,504
男 性	異性間の性的接触	4	91	165	164	119	0	543
	同性間の性的接触	3	162	151	148	64	0	528
	静注薬物濫用	0	1	3	3	1	0	8
	母子感染	9	0	0	0	0	0	9
	その他	1	1	4	3	6	0	15
	不 明	0	18	42	55	69	2	186
	合 計	17	273	365	373	259	2	1,289
女 性	異性間の性的接触	10	84	39	15	20	0	168
	同性間の性的接触	0	0	0	0	0	0	0
	静注薬物濫用	0	0	0	0	0	0	0
	母子感染	7	0	0	2	0	0	9
	その他	0	7	1	4	1	0	13
	不 明	0	5	9	2	9	0	25
	合 計	17	96	49	23	30	0	215

注:「同性間の性的接触」には男性両性愛者を含む。

表 8-1 患者・感染者数の性・年齢階級別年次推移（法施行後）

単位：人

		H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	累 計
総 数	20歳未満	1	6	24	39	15	12	10	15	122
	20～29	28	31	113	299	171	169	154	189	1,154
	30～39	25	31	52	80	85	118	122	201	714
	40～49	17	21	35	44	55	87	95	108	462
	50歳以上	8	7	13	28	37	47	63	96	299
	不 明	0	1	1	3	0	1	2	1	9
	合 計	79	97	238	493	363	434	446	610	2,760
男 性	20歳未満	1	0	2	3	3	2	1	7	19
	20～29	17	14	27	65	57	69	87	113	449
	30～39	22	27	41	66	62	95	99	155	567
	40～49	15	19	34	40	50	81	91	97	427
	50歳以上	7	6	12	28	35	42	55	83	268
	不 明	0	0	0	0	0	1	2	0	3
	合 計	62	66	116	202	207	290	335	455	1,733
女 性	20歳未満	0	6	22	36	12	10	9	8	103
	20～29	11	17	86	234	114	100	67	76	694
	30～39	3	4	11	14	23	23	23	46	144
	40～49	2	2	1	4	5	6	4	11	33
	50歳以上	1	1	1	0	2	5	8	13	30
	不 明	0	1	1	3	0	0	0	1	6
	合 計	17	31	122	291	156	144	111	155	1,027

表 8-2 日本人再掲

単位：人

		H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	累 計
総 数	20歳未満	1	3	2	6	4	5	4	9	34
	20～29	20	13	25	42	52	61	63	93	369
	30～39	20	19	27	47	44	78	68	111	414
	40～49	10	18	26	38	48	74	89	93	396
	50歳以上	7	5	13	28	34	47	60	95	289
	不 明	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	合 計	58	58	93	161	182	266	285	401	1,504
男 性	20歳未満	1	0	1	3	3	1	1	7	17
	20～29	12	8	14	34	40	42	55	68	273
	30～39	17	17	24	44	34	69	60	100	365
	40～49	8	16	25	35	45	70	86	88	373
	50歳以上	6	4	12	28	33	42	52	82	259
	不 明	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	合 計	44	45	76	144	155	225	255	345	1,289
女 性	20歳未満	0	3	1	3	1	4	3	2	17
	20～29	8	5	11	8	12	19	8	25	96
	30～39	3	2	3	3	10	9	8	11	49
	40～49	2	2	1	3	3	4	3	5	23
	50歳以上	1	1	1	0	1	5	8	13	30
	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	14	13	17	17	27	41	30	56	215

表 8-3 外国人再掲

単位：人

		H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	累 計
総 数	20歳未満	0	3	22	33	11	7	6	6	88
	20～29	8	18	88	257	119	108	91	96	785
	30～39	5	12	25	33	41	40	54	90	300
	40～49	7	3	9	6	7	13	6	15	66
	50歳以上	1	2	0	0	3	0	3	1	10
	不 明	0	1	1	3	0	0	1	1	7
	合 計	21	39	145	332	181	168	161	209	1,256
男 性	20歳未満	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	20～29	5	6	13	31	17	27	32	45	176
	30～39	5	10	17	22	28	26	39	55	202
	40～49	7	3	9	5	5	11	5	9	54
	50歳以上	1	2	0	0	2	0	3	1	9
	不 明	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	合 計	18	21	40	58	52	65	80	110	444
女 性	20歳未満	0	3	21	33	11	6	6	6	86
	20～29	3	12	75	226	102	81	59	51	609
	30～39	0	2	8	11	13	14	15	35	98
	40～49	0	0	0	1	2	2	1	6	12
	50歳以上	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	不 明	0	1	1	3	0	0	0	1	6
	合 計	3	18	105	274	129	103	81	99	812

表 8-4 異性同性的接触再掲

単位：人

		H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	累 計
総 数	20歳未満	0	2	15	24	8	7	6	4	66
	20～29	14	13	66	152	85	79	74	92	575
	30～39	11	13	23	35	38	55	63	91	329
	40～49	3	5	13	24	25	32	48	53	203
	50歳以上	3	0	5	16	14	21	35	46	140
	不 明	0	1	1	2	0	0	1	1	6
	合 計	31	34	123	253	170	194	227	287	1,319
男 性	20歳未満	0	0	1	1	0	1	0	1	4
	20～29	5	3	12	22	23	17	31	39	152
	30～39	8	10	17	27	24	41	48	69	244
	40～49	3	3	12	23	23	29	45	46	184
	50歳以上	3	0	4	16	13	17	28	39	120
	不 明	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	合 計	19	16	46	89	83	105	153	194	705
女 性	20歳未満	0	2	14	23	8	6	6	3	62
	20～29	9	10	54	130	62	62	43	53	423
	30～39	3	3	6	8	14	14	15	22	85
	40～49	0	2	1	1	2	3	3	7	19
	50歳以上	0	0	1	0	1	4	7	7	20
	不 明	0	1	1	2	0	0	0	1	5
	合 計	12	18	77	164	87	89	74	93	614

表 9-1 異性同性的接触における患者・感染者数の性・感染地域別年次推移（法施行後）

単位：人

		H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	累 計
総 数	国 内	8	9	35	56	60	85	104	153	510
	海 外	23	19	78	140	71	64	74	89	558
	不 明	0	6	10	57	39	45	49	45	251
	合 計	31	34	123	253	170	194	227	287	1,319
男 性	国 内	1	6	18	40	37	44	73	106	325
	海 外	18	9	27	42	38	48	54	65	301
	不 明	0	1	1	7	8	13	26	23	79
	合 計	19	16	46	89	83	105	153	194	705
女 性	国 内	7	3	17	16	23	41	31	47	185
	海 外	5	10	51	98	33	16	20	24	257
	不 明	0	5	9	50	31	32	23	22	172
	合 計	12	18	77	164	87	89	74	93	614

表 9-2 日本人再掲

単位：人

		H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	累 計
総 数	国 内	8	9	32	51	47	67	89	129	432
	海 外	16	8	18	33	26	39	38	42	220
	不 明	0	0	1	4	6	10	22	16	59
	合 計	24	17	51	88	79	116	149	187	711
男 性	国 内	1	6	17	39	35	40	71	97	306
	海 外	13	5	17	31	20	35	32	33	186
	不 明	0	0	1	3	6	7	20	14	51
	合 計	14	11	35	73	61	82	123	144	543
女 性	国 内	7	3	15	12	12	27	18	32	126
	海 外	3	3	1	2	6	4	6	9	34
	不 明	0	0	0	1	0	3	2	2	8
	合 計	10	6	16	15	18	34	26	43	168

表 9-3 外国人再掲

単位：人

		H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	累 計
総 数	国 内	0	0	3	5	13	18	15	24	78
	海 外	7	11	60	107	45	25	36	47	338
	不 明	0	6	9	53	33	35	27	29	192
	合 計	7	17	72	165	91	78	78	100	608
男 性	国 内	0	0	1	1	2	4	2	9	19
	海 外	5	4	10	11	18	13	22	32	115
	不 明	0	1	0	4	2	6	6	9	28
	合 計	5	5	11	16	22	23	30	50	162
女 性	国 内	0	0	2	4	11	14	13	15	59
	海 外	2	7	50	96	27	12	14	15	223
	不 明	0	5	9	49	31	29	21	20	164
	合 計	2	12	61	149	69	55	48	50	446

表 10 同性間の性的接触における患者・感染者数の国籍・感染地域別年次推移（法施行後）

単位：人

		H元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	累 計
総 数	国 内	13	18	22	34	44	86	81	117	415
	海 外	18	9	18	17	11	15	13	12	113
	不 明	5	3	2	7	6	21	14	22	80
	合 計	36	30	42	58	61	122	108	151	608
日 本 人	国 内	13	17	22	34	44	86	79	115	410
	海 外	12	4	8	7	6	7	12	6	62
	不 明	1	1	2	7	5	18	7	14	55
	合 計	26	22	32	48	55	111	98	135	527
外 国 人	国 内	0	1	0	0	0	0	2	2	5
	海 外	6	5	10	10	5	8	1	6	51
	不 明	4	2	0	0	1	3	7	8	25
	合 計	10	8	10	10	6	11	10	16	81

注：男性両性愛者を含む。

EHEC/VTEC 情報 1997年2月報告分（速報）

報 告 機関名	地・保 医の別	検体採取 年月日	血清型	V T 産生性	毒素検出方法	VT型	年齢	性	臨床症状	備 考
札幌市	医	97. 1. 18	O26	+	RPLA、PCR	VT 1	2歳	男	不明	
岩手県	地・保	97. 1. 5 97. 1. 10	O157:H7 O157:H7	+	RPLA RPLA	VT1&2 VT1&2	70歳 65歳	男女	不明 不明	家族
山形県	地・保	96.12.30 97. 1. 3 97. 1. 4 97. 1. 7 97. 1. 8 97. 1. 10 97. 1. 12 97. 1. 13 97. 1. 7	O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7	+	PCR PCR PCR PCR PCR PCR PCR PCR PCR	VT1&2 VT1&2 VT1&2 VT1&2 VT1&2 VT1&2 VT1&2 VT1&2 VT1&2	7歳 2歳 63歳 8歳 8歳 14歳 39歳 67歳 53歳	男女 男女 男女 男女 男女 男女 男女 男女 男女	下痢、血便 健康保菌者 健康保菌者 頭痛、発熱、下痢、血便 嘔吐、下痢、血便 腹痛、下痢 健康保菌者 健康保菌者 下痢、血便、腹痛	家族 集発
横須賀	地・保	96. 7. 15 96. 8. 12 96. 8. 16 96. 8. 17 96. 8. 20 96. 8. 30 96.10. 5	O157:H7 O145:HNM O157:H7 O145:HNM O26:H11 O26:H11 O157:H7	+	RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR	VT 2 VT 1 VT 2 VT 1 VT 1 VT 1 VT1&2	43歳 25歳 2歳 54歳 3歳 3歳 4歳	男 男 男 女 女 女 女	下痢、腹痛 下痢 下痢 無症状 無症状 下痢、嘔吐 下痢、HUS	
長野県	地・保	97. 1. 8	O157:H7	+	RPLA	VT 2	59歳	男	血便、下痢症	軽快
静岡県	地・保	97. 1. 14	O1	+	RPLA、PCR	VT1&2	20歳	女	下痢症、軽快 ｲﾝﾃﾞ 旅行(97.1.3-11)	
愛知県	医	97. 1. 20	O157:H-	+	RPLA、PCR	VT 2	3歳	女	HUS	
三重県	地・保	97. 1. 12 97. 1. 21 97. 1. 30	O157:H7 O157:H7 O157:H7	+	PCR PCR PCR	VT1&2 VT1&2 VT1&2	4歳 11歳 62歳	男 女 女	感染性下痢症、軽快 感染性下痢症、軽快 保菌者	家庭内集発
大阪市	地・保	97. 1. 9	O157:H7	+	RPLA、PCR	VT1&2	38歳	女	不明	
島根県	地・保	96.12.22 96.12.24 96.12.24 96.12.24 96.12.28	O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7	+	RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR	VT1&2 VT1&2 VT1&2 VT1&2 VT1&2	1歳 5歳 3歳 1歳 30歳	男 男 男 女 女	血性下痢、腹痛 健康保菌者 健康保菌者 健康保菌者 下痢、腹痛	
福岡県	地・保	96.10.15 96.10.15 96.10.15 96.10.15 96.11. 7	O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7	+	RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR	VT 2 VT 2 VT 2 VT 2 VT1&2	1歳 4歳 34歳 40歳 64歳	女 男 女 男 女	無症状 無症状(10.4に発症しO157と診断) 腹痛、下痢 腹痛 下痢	軽症
佐賀県	地・保	96.12. 3 96.12. 8 96.12.24 96.12.19 96.12.17 96.12.22	O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7 O157:H7	+	RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR RPLA、PCR	VT 2 VT 2 VT1&2 VT1&2 VT1&2 VT1&2	4歳 31歳 2歳 68歳 63歳 10歳	男 女 女 男 女 男	下痢 無症状 下痢、血便 無症状 下痢、血便 下痢、血便	親子 夫婦
宮崎県	地・保	97. 1. 20	O111:H-	+	RPLA、PCR	VT1&2	62歳	男	血便	

流行・集団発生に関する情報 1997年1月(速報)

原因菌	発生期間	報告 地研名	原因施設	摂取場所	推定される原因		患者数/摂食者数	菌陽性/被験者数
					原因食品	発生原因		
病原性大腸菌 EHEC/VTEC O157:H7	1997. 1.10-23	山形県	家庭	家庭	シカ肉	原材料汚染	4/ 11	6/ 79
	*VT1&2 1.13-31	三重県	家庭	家庭	検出 不明	不明	2/ 5	3/ 5
	*VT1&2 1.19-20	福島県	集会施設	集会施設	集会施設で調理 された食事	不明	18/ 42	1/ 17
サルモネラ 09 S.Enteritidis	1996. 9.25-27	福岡県	飲食店	飲食店	カキ氷		32/ 181	13/ 17
	*鹿児島市関連 10.27-11.1	福岡県	学校給食施設	学校	めん草・ニンジン ピーナツ 和え	二次汚染	644/5320	17/ 23
	*ピーナツ和えから 140CFU/100gのS.Enteritidis が検出された。同一の検査が他に 2つあり、それらは菌数が少なく磁気ビーズ法で検出することができた。また、PCR 法も併行して行い、Salmonellaの可能性が早期に推察でき、非常に有効であった 11.11	福島県	民宿	民宿	デコレーションケーキ	調査中	17/ 35	6/ 9
*患者発生数9以下のもの 2件：福岡県保健研2								
腸炎ビブリオ 03:K6	96.11. 6- 7	福岡県	飲食店	飲食店	酢ガキ	カキ	28/ 49	3/ 5
					*カキからはV.parahaemolyticus O1:K25 が検出された			
E型ボツリヌス菌	97. 1. 1	福島県	家庭	家庭	はやのいずし	原材料汚染	3/ 5	1/ 3
					*はやのいずしからC.botulinum E型を検出、菌陽性者は51歳男性			
SRSV (小型球形ウイルス)	1997. 1.24	滋賀県	学校	学校			15	1/ 1
	*患者は 9~10歳、下痢、嘔吐、かぜ様症状、電頭でSRSV検出							
	1.25-26	宮崎県	飲食店	飲食店	生カキ		10/ 13	2/ 2
	*患者は27~51歳、下痢、腹痛、嘔吐、嘔気、発熱、頭痛、平均潜伏時間34時間、二次感染無し、電頭でSRSV検出 免疫電頭陽性							
	2. 1- 2	滋賀県	飲食店	飲食店	生カキ		10/ 25	1/ 1
	*下痢、腹痛、嘔吐、嘔気、発熱、平均潜伏時間37時間、二次感染無し、電頭でSRSV検出							
	2. 3- 4	滋賀県	飲食店	飲食店	生カキ		9/ 13	3/ 9
	*患者は 1~42歳、下痢、腹痛、嘔吐、嘔気、発熱、潜伏時間37時間、二次感染無し、電頭でSRSV検出							

食品検査情報 1997年1月

報告 地研名	検体数	材料(国産or輸入) : 検出病原菌(陽性検体数) : 備考
仙台市	6	弁当・寿司(国産) : B.cereus (2)
山形県	7	シカ肉(国産) : VTEC O157:H7 VT1&2 (4)
神奈川県	1	和生菓子(国産) : B.cereus (1)
三重県	1	肉のそぼろ煮(国産) : B.subtilis (1)、S.cereviae (1)
滋賀県	1	牛タン(国産) : S.aureus coagulase VII・Enterotoxin A (1)
大阪府	75	卵・液卵(国産) : Salmonella 09 S.Enteritidis (2)
	75	卵・液卵(国産) : Salmonella 07 S.Mondevideo (1)
大阪市	10	食肉加工品(国産) : C.perfringens (2)
和歌山市	15	生鶏肉(国産) : Salmonella 07 S.Infantis (8)、08 S.Hadar (2)、S.Blockley (3)、08;d;1,2 (1)、L.monocytogenes (6)、S.aureus coagulase VII・Enterotoxin B (1)
大分県	10	エビ(輸入) : V.parahaemolyticus (8) : タイ5、インドネシア2、モザンビーク1、V.fluvialis (5) : タイ4、インドネシア1、V.mimicus CT- (3) : タイ2、インドネシア1、V.cholerae non-01 (2) : タイ1、インドネシア1、V.furnissii (1) : タイ1

環境汚染調査（定点観測など）情報 1997年1月

報告地研名	検体数	材料（陽性検体数）：備考
札幌市	4	下水汚泥： <i>V.cholerae</i> non-01（1）
神奈川県	1 7 2 10	24時間風呂浴槽水： <i>L.pneumophila</i> SG6（1） 24時間風呂浴槽水： <i>L.pneumophila</i> （7） 24時間風呂浴槽水： <i>L.pneumophila</i> SG5（1） 河川水： <i>V.cholerae</i> 01 El Tor, Ogawa, CT-（1）、 <i>V.cholerae</i> non-01（4）
川崎市	15	河川水： <i>Salmonella</i> 04（1）、07（1）、08（3）、09（3）、013（1）、 <i>V.parahaemolyticus</i> （3）、 <i>V.cholerae</i> non-01&0139（1）
三重県	9	風呂の湯： <i>L.pneumophila</i> SG2、3、5（6）
大阪市	9	河川水： <i>V.cholerae</i> non-01（6）
鳥取県	4 1	河川水： <i>Salmonella</i> 07 <i>S.infantis</i> （1） 下水： <i>Salmonella</i> 04 <i>S.kiambu</i> （1）
広島市	1 1 1 1 1 1 1 1	下水： <i>Salmonella</i> 07 <i>S.tennessee</i> （1）、08 <i>S.hadar</i> （1）、 <i>S.muenchen</i> （1）、09 <i>S.enteritidis</i> （1）、01,3,19 <i>S.senftenberg</i> （1） 下水： <i>Salmonella</i> 04 <i>S.schwarzengrund</i> （1）、07 <i>S.tennessee</i> （1）、 <i>S.thompson</i> （1）、03,10 <i>S.anatum</i> （1） 01,3,19（1）、013 <i>S.havana</i> （1） 下水： <i>Salmonella</i> 07 <i>S.monteideo</i> NA感受性（1）、NA耐性（1）、08 <i>S.hadar</i> （1）、01,3,19 <i>S.senftenberg</i> （1） 下水： <i>Salmonella</i> 04 <i>S.agona</i> （1）、07 <i>S.thompson</i> （1）、09 <i>S.enteritidis</i> （1）、03,10（1）、01,3,19 <i>S.senftenberg</i> （1）、013 <i>S.havana</i> （1） 下水： <i>Salmonella</i> 04 <i>S.agona</i> （1）、07 <i>S.tennessee</i> （1）、09 <i>S.enteritidis</i> （1） 下水： <i>Salmonella</i> 04 <i>S.typhimurium</i> （1）、07（1）、08（1）、03,10 <i>S.anatum</i> （1）、013（1） 海水： <i>V.parahaemolyticus</i> KUT（1）、K58（1）
高知県	2 2 2 2	下水： <i>Salmonella</i> 09 <i>S.enteritidis</i> （1） 下水： <i>Salmonella</i> 07 <i>S.monteideo</i> （1） 下水： <i>Salmonella</i> 04 <i>S.derby</i> （1） 下水： <i>Salmonella</i> 07 <i>S.infantis</i> （1）
佐賀県	14 10	0157患者自宅使用済朝の風呂水および洗濯機ネット内ゴミ：VTEC 0157:H7 VT2（2） 0157患者自宅使用済朝の風呂水およびトイレ、風呂回りのふきとり：VTEC 0157:H7 VT1&2（9）

医療機関における重要と思われる症例に関する情報 1997年2月報告分（速報）

報告地研名	検体採取年月日	検体の種類	検出病原菌種・菌型	年齢・月齢	性	臨床診断名・症状	基礎疾患等
青森県	97. 1. 4 97. 1.25 97. 1.27	髄液 血液 血液	<i>Citrobacter freundii</i> <i>Enterococcus faecalis</i> <i>Staphylococcus aureus</i>	76歳 86歳 78歳	女男男	発熱、髄膜炎 心内膜炎、菌血症 発熱、菌血症	脳梗塞 心不全 胃癌
山形県	96.12. 6 96.12.16	髄液 髄液	<i>Bacteroides</i> sp. <i>Enterobacter cloacae</i>	60歳 65歳	女女	発熱、髄膜炎、意識なし 発熱、髄膜炎、意識レベル低い	脳内出血→水頭症 脳内出血
千葉県	97. 1. 8	血液	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	68歳	男	敗血症、ショック	多発性骨髄腫
名古屋	97. 1.22	血液	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	10ヵ月	男	敗血症、髄膜炎	経過観察中
広島県	97. 1. 4	血液	<i>Streptococcus pyogenes</i>	19歳	女	咽頭発赤、血圧低下、 前腕腫脹、TSLs	1/1 頃発病、1/ 8死亡

医療機関において検出された *Staphylococcus aureus* の内訳（再掲） 1997年1月検出分

	分離材料					
	糞便	穿刺液	髄液	血液	喀痰・気管吸引液 および下気道	尿
MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）	248	59	1	68	2537	653
MSSA（メチシリン感受性黄色ブドウ球菌）	150	43	—	47	973	246

< 病原細菌検出状況・1997年2月25日現在報告数 >

検出病原菌の報告機関別集計 由来ヒト 1997年1月検出分

	地 研 保 健 所	検 疫 所	医 療* 機 関
Enteroinvasive <i>E. coli</i> (EIEC)	1 (1)	—	5
Enterotoxigenic <i>E. coli</i> (ETEC)	8 (8)	—	25
Enteropathogenic <i>E. coli</i> (EPEC)	24 (7)	4 (4)	276
Verotoxin-producing <i>E. coli</i> (EHEC/VTEC)**	15 (1)	—	4
<i>E. coli</i> other/unknown	5 (1)	1 (1)	173
<i>Salmonella</i> Typhi	3 (1)	—	2
<i>Salmonella</i> 04	21 (1)	2 (2)	13
<i>Salmonella</i> 07	23 (1)	8 (8)	14
<i>Salmonella</i> 08	18 (1)	3 (3)	6
<i>Salmonella</i> 09	52 (2)	3 (3)	69
<i>Salmonella</i> 09,46	—	—	2
<i>Salmonella</i> 03,10	4 (2)	2 (2)	1
<i>Salmonella</i> 01,3,19	4	—	1
<i>Salmonella</i> 013	4	1 (1)	1
<i>Salmonella</i> others	1	—	4
<i>Salmonella</i> unknown	—	—	1
<i>Yersinia enterocolitica</i>	—	—	3
<i>Yersinia pseudotuberculosis</i>	—	—	1
<i>Vibrio cholerae</i> 01:El Tor, Ogawa CT(+)	—	1 (1)	—
<i>Vibrio cholerae</i> non-01&0139	—	11 (11)	2
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	4 (4)	39 (39)	1
<i>Vibrio fluvialis</i>	—	1 (1)	—
<i>Vibrio mimicus</i>	—	2 (2)	—
<i>Aeromonas hydrophila</i>	—	5 (5)	3
<i>Aeromonas sobria</i>	—	14 (14)	2
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	—	66 (66)	4
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	4 (4)	48 (48)	—
<i>Campylobacter jejuni</i>	13	—	46
<i>Campylobacter coli</i>	—	—	2
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	—	—	148
<i>Staphylococcus aureus</i>	6	—	451
<i>Clostridium perfringens</i>	3	—	7
<i>Clostridium botulinum</i> E	1	—	—
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	—	1 (1)	—
<i>Shigella flexneri</i> 2a	4 (1)	2 (2)	2
<i>Shigella flexneri</i> not typed	—	2 (2)	—
<i>Shigella boydii</i> 2	—	1 (1)	—
<i>Shigella boydii</i> 3	—	1 (1)	—
<i>Shigella boydii</i> 6	—	1 (1)	—
<i>Shigella sonnei</i>	5 (5)	10 (10)	—
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	1	—	•
<i>Streptococcus</i> group A	149	—	•
<i>Streptococcus</i> group B	7	—	•
<i>Streptococcus</i> group C	1	—	•
<i>Streptococcus</i> group G	9	—	•
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	1	—	•
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	—	•
Total	392 (40)	229 (229)	1269

() : 海外旅行者分再掲

• : 記載せず

註：各検査機関における集計数はそれぞれ別ルートで収集されているので、同一検査情報が他の機関から重複して報告される場合がある

* 医療機関については糞便からの検出数のみをあげた

** EHEC/VTEC (詳細は17ページ参照)

<医療機関>

検出病原菌の医療機関集計 由来 ヒト (1997年2月25日現在報告数)

分離材料：糞便

	1997年 1月 検出分 (当月分)	1996年 1月 検出分 (前年同月分)
S. TYPHI	2	2
S. PARATYPHI A	-	1
SALMONELLA O4	13	15
SALMONELLA O7	14	14
SALMONELLA O8	6	4
SALMONELLA O9	69	45
SALMONELLA O9,46	2	-
SALMONELLA O3,10	1	-
SALMONELLA O1,3,19	1	1
SALMONELLA O13	1	-
SALMONELLA OTHERS	4	1
SALMONELLA UNKNOWN	1	1
Y. ENTEROCOLITICA	3	7
Y. PSEUDOTUBERCULOSIS	1	-
V. CHOL. NON-O1&O139	2	-
V. PARAHAEVOLYTICUS	1	2
A. HYDROPHILA	3	3
A. SOBRIA	2	1
A. HYDROPHILA/SOBRIA	4	3
P. SHIGELLOIDES	-	2
C. JEJUNI	46	64
C. COLI	2	3
C. JEJUNI/COLI	148	104
S. AUREUS	451*	449
C. PERFRINGENS	7	7
B. CEREUS	-	2
EIEC	5	3
ETEC	25	18
EPEC	276	95
EHEC/VTEC	4**	-
E. COLI OTHER/UNKNOWN	173	51
S. FLEXNERI 1B	-	1
S. FLEXNERI 2A	2	1
T O T A L	1269	900

EHEC/VTEC (詳細は17ページ参照)

分離材料：穿刺液 (胸水、腹水、関節液など)

E. COLI	62	81
K. PNEUMONIAE	23	30
H. INFLUENZAE	4	3
P. AERUGINOSA	56	48
MYCOBACTERIUM SPP.	-	2
S. AUREUS	113*	115
STAPHYLOCOCCUS, COAG-	61	63
S. PNEUMONIAE	11	8
ANAEROBES	70	86
M. PNEUMONIAE	18	-
T O T A L	418	436

分離材料：髄液

E. COLI	2	-
H. INFLUENZAE	4	2
L. MONOCYTOGENES	-	1
S. AUREUS	1	7
S. PNEUMONIAE	1	5
T O T A L	8	15

分離材料：血液

E. COLI	65	53
S. TYPHI	-	4
S. PARATYPHI A	-	1
SALMONELLA SPP.	2	4
H. INFLUENZAE	6	4
L. MONOCYTOGENES	2	-
P. AERUGINOSA	25	23
S. AUREUS	123*	100
STAPHYLOCOCCUS, COAG-	176	181
STREPTOCOCCUS B	9	4
S. PNEUMONIAE	19	13
ANAEROBES	18	18
T O T A L	445	405

* 検出された *S. aureus* の内訳は19ページ参照

分離材料：咽頭および鼻咽腔からの材料

	1997年 1月 検出分 (当月分)	1996年 1月 検出分 (前年同月分)
B. PERTUSSIS	1	2
H. INFLUENZAE	1364	1336
STREPTOCOCCUS A	782	772
S. PNEUMONIAE	709	626
T O T A L	2856	2736

分離材料：喀痰、気管吸引液および下気道からの材料

M. TUBERCULOSIS	441	159
K. PNEUMONIAE	963	728
H. INFLUENZAE	661	660
P. AERUGINOSA	2456	2291
S. AUREUS	3747*	3316
STREPTOCOCCUS A	36	52
STREPTOCOCCUS B	412	400
S. PNEUMONIAE	647	560
ANAEROBES	61	11
M. PNEUMONIAE	-	3
T O T A L	9424	8180

分離材料：尿

E. COLI	2905	2746
ENTEROBACTER SPP.	292	381
K. PNEUMONIAE	703	604
ACINETOBACTER SPP.	96	120
P. AERUGINOSA	1544	1448
S. AUREUS	968*	809
STAPHYLOCOCCUS, COAG-	1272	1343
ENTEROCOCCUS SPP.	2286	2229
C. ALBICANS	468	491
T O T A L	10534	10171

分離材料：陰部尿道頭管擦過 (分泌) 物

N. GONORRHOEAE	76	73
STREPTOCOCCUS B	769	567
C. TRACHOMATIS	167	204
UREAPLASMA	23	14
C. ALBICANS	1222	842
T. VAGINALIS	17	44
T O T A L	2274	1744

<追加・変更情報> 1997年2月報告分

96ネン 6カ*ツ チェンホケンシヨ トクシマケン	ハンコウ	SALMONELLA O7	= 1
96ネン 7カ*ツ チェンホケンシヨ ヨコスガシ	タイキョウケレ	V. PARAHAEVOLYTICUS	= 1
		P. SHIGELLOIDES	= 1 (1)
		ETEC	= 2 (2)
		EPEC	= 1 (1)
		EHEC/VTEC	= 1
96ネン 8カ*ツ チェンホケンシヨ ヨコスガシ	タイキョウケレ	V. PARAHAEVOLYTICUS	= 6
		A. HYDROPHILA/SOBRIA	= 3
		C. JEJUNI/COLI	= 2
		S. FLEXNERI 4	= 1 (1)
		ETEC	= 3 (2)
		EPEC	= 3 (1)
		EHEC/VTEC	= 5
96ネン 9カ*ツ チェンホケンシヨ ヨコスガシ	タイキョウケレ	SALMONELLA O9	= 2
		V. PARAHAEVOLYTICUS	= 5
		C. JEJUNI/COLI	= 1
		ETEC	= 4 (2)
		EPEC	= 3
96ネン 9カ*ツ チェンホケンシヨ フクオカケン	タイキョウケレ	SALMONELLA O8	= 3
		SALMONELLA O9	= 15
96ネン10カ*ツ チェンホケンシヨ ヨコスガシ	タイキョウケレ	SALMONELLA O8	= 2 (2)
		P. SHIGELLOIDES	= 1 (1)
		ETEC	= 3 (3)
		EPEC	= 1
		EHEC/VTEC	= 1
96ネン10カ*ツ チェンホケンシヨ フクオカケン	タイキョウケレ	SALMONELLA O9	= 3
		EHEC/VTEC	= 4

() : 海外旅行者分再掲

<地研・保健所>

検出病原菌の地研・保健所集計 由来 ヒト 1997年1月検出分

	サ ッ ホ ロ シ	イ ミ ヤ キ シ	セ ン マ カ イ シ	フ ク シ マ	イ ハ ラ キ	ト チ ン キ マ	ク イ タ マ	サ イ タ マ	チ ハ	チ ハ シ	カ ナ カ ワ	カ ワ サ キ シ	ヨ コ ス カ シ	ト ナ カ ノ マ	シ ス オ カ	シ ス オ カ シ	ハ マ マ ツ シ	ア イ エ チ	ミ エ カ					
EIEC	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (1)	-	-	-					
EPEC	-	-	-	-	-	-	-	1 (1)	-	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-	-	-	-	-					
EPEC	-	-	-	-	9 (3)	2	4	-	-	-	-	2 (2)	-	-	-	2 (2)	-	-	-					
EHEC/VTEC*	-	2	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1 (1)	-	-	3					
E.COLI OTHER/UNKNOWN	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1 (1)	-	-	1	-	-	-	-					
S.TYPHI	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
SALMONELLA O4	-	-	-	2	-	3	-	2	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-					
SALMONELLA O7	-	-	-	-	2	4	1	2	2	-	-	1 (1)	-	1	3	-	-	2	1					
SALMONELLA O8	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	-	-	-	-	3	-	-	5	1					
SALMONELLA O9	-	-	-	-	3	3	-	6 (1)	2	-	1	3	-	-	6	-	-	2	2					
SALMONELLA O3,10	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-					
SALMONELLA O1,3,19	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-					
SALMONELLA O13	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-					
SALMONELLA OTHERS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-					
V.PARAHAEMOLYTICUS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 (2)	2 (2)	-	-	-					
P.SHIGELLOIDES	-	-	-	-	-	-	-	2 (2)	-	-	-	1 (1)	-	-	-	-	-	-	-					
C.JEJUNI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-					
S.AUREUS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1					
C.PERFRINGENS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-					
C.BOTULINUM E	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
S.FLEXNERI 2A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1					
S.SONNEI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (1)	1 (1)	2 (2)	-	-	-	-					
N.GONORRHOEA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-					
STREPTOCOCCUS A	-	1	10	-	37	-	-	69	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-					
STREPTOCOCCUS B	-	-	-	-	3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
STREPTOCOCCUS C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
STREPTOCOCCUS G	-	-	-	-	2	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
S.PNEUMONIAE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
K.PNEUMONIAE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
TOTAL	1	2	1	10	7	54 (3)	8	17	5	89 (4)	9	1	1	6	13 (5)	2 (2)	1	4 (1)	26 (4)	6 (6)	1	13	3	6

* EHEC/VTEC (詳細は17ページ参照)

() : 海外旅行者分再掲

<検疫所>

検出病原菌の検疫所集計

由来 ヒト 1997年1月検出分

	ハク ク タ コ ウ ウ	セ ン マ カ イ シ	フ ク シ マ	イ ハ ラ キ	ト チ ン キ マ	ク イ タ マ	サ イ タ マ	チ ハ	チ ハ シ	カ ナ カ ワ	カ ワ サ キ シ	ヨ コ ス カ シ	ト ナ カ マ ノ	シ ス オ カ	シ ス オ カ シ	ハ マ マ ツ シ	ア イ エ チ	ミ エ カ
EPEC	-	1	-	2	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
E.COLI OTHER/UNKNOWN	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SALMONELLA O4	-	-	1	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SALMONELLA O7	-	-	2	3	2	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SALMONELLA O8	-	-	-	1	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SALMONELLA O9	-	-	2	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SALMONELLA O3,10	-	-	1	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SALMONELLA O13	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
V.CHOL.O1:ELT.OGA.CT+	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
V.CHOLERA NON-O1&O139	-	-	3	3	5	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
V.PARAHAEMOLYTICUS	-	-	24	4	8	-	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
V.FLUVIALIS	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
V.MIMICUS	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A.HYDROPHILA	-	-	-	-	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A.SOBRIA	-	-	-	-	14	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A.HYDROPHILA/SOBRIA	-	-	-	-	66	-	66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P.SHIGELLOIDES	1	1	30	12	-	2	2	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S.DYSENTERIAE 3	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S.FLEXNERI 2A	-	-	-	-	1	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S.FLEXNERI NT	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S.BOYDII 2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S.BOYDII 3	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S.BOYDII 6	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S.SONNEI	-	-	6	1	1	-	2	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TOTAL	1	2	73	29	111	3	10	229	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

海外旅行者

<追加・変更情報> 1997年2月報告分(つづき)

96年11月	チケンホケンシヨ	ヨコスカシ	タイキオクレ	SALMONELLA O4	=	2
				SALMONELLA O7	=	2
				SALMONELLA O9	=	38
				P.SHIGELLOIDES	=	2 (2)
				C.JEJUNI/COLI	=	3 (2)
				EPEC	=	2 (2)
				EPEC	=	2
96年11月	チケンホケンシヨ	フクオカケン	タイキオクレ	SALMONELLA O9	=	19
				V.PARAHAEMOLYTICUS	=	3
				EHEC/VTEC	=	1
96年11月	チケンホケンシヨ	フクシマケン	ハンコウ	SALMONELLA O9	=	6
				EPEC	=	19
96年12月	チケンホケンシヨ	ヤマカ	タイキオクレ	EHEC/VTEC	=	1
96年12月	チケンホケンシヨ	トウキョウト	タイキオクレ	SALMONELLA O4	=	3
				SALMONELLA O7	=	2 (1)
				SALMONELLA O8	=	7 (1)
				SALMONELLA O9	=	14 (1)
				SALMONELLA O3,10	=	3 (3)
				SALMONELLA O1,3,19	=	1
				SALMONELLA O13	=	2
				SALMONELLA OTHERS	=	1
				V.PARAHAEMOLYTICUS	=	2 (2)
				A.HYDROPHILA	=	1 (1)
				A.HYDROPHILA/SOBRIA	=	5 (5)
				P.SHIGELLOIDES	=	8 (5)
				C.JEJUNI	=	1
				C.COLI	=	2 (2)
				C.JEJUNI/COLI	=	9 (9)
				S.AUREUS	=	3
				S.DYSENTERIAE 2	=	1
				S.FLEXNERI 6	=	2 (2)
				S.SONNEI	=	1 (1)
				EIEC	=	1 (1)
				EIEC	=	8 (8)
				EPEC	=	3 (1)
96年12月	チケンホケンシヨ	ヨコスカシ	タイキオクレ	C.JEJUNI/COLI	=	1
				S.FLEXNERI 2A	=	1
				EPEC	=	2
96年12月	チケンホケンシヨ	シマケン	タイキオクレ	EHEC/VTEC	=	5
96年12月	チケンホケンシヨ	トクシマケン	タイキオクレ	SALMONELLA O9	=	1
96年12月	チケンホケンシヨ	カガ	タイキオクレ	SALMONELLA O9	=	2
				C.JEJUNI	=	3
				S.AUREUS	=	2
				EPEC	=	3
96年12月	チケンホケンシヨ	サカ	タイキオクレ	SALMONELLA OTHERS	=	1
				EHEC/VTEC	=	4
96年12月	チケンホケンシヨ	フクシマケン	ハンコウ	SALMONELLA O7	=	23
				SALMONELLA O8	=	0

() : 海外旅行者分再掲

地研・保健所集計 由来 ヒト(つづき)

キ ョ ウ ト シ	オ オ サ カ	サ カ イ シ	ナ カ ヤ マ シ	ワ カ ヤ マ シ	ト ッ ト リ マ シ	ヒ ロ シ マ シ	コ ウ チ	サ カ サ キ シ	ナ カ サ キ シ	オ オ イ タ	ミ ヤ サ シ マ	カ コ サ シ マ	コ ウ ケ イ	
-	-	-	-	-	-	5(5)	-	-	-	-	-	-	1(1)	EIEC
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8(8)	ETEC
2	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	24(7)	EPEC
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	15(1)	EHEC/VTEC*
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5(1)	E.COLI OTHER/UNKNOWN
-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3(1)	S.TYPHI
-	1	-	-	-	-	-	1	1	1(1)	6	-	-	21(1)	SALMONELLA O4
-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23(1)	SALMONELLA O7
-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	2	-	-	18(1)	SALMONELLA O8
-	6	-	1(1)	-	-	-	2	1	-	14	-	-	52(2)	SALMONELLA O9
-	1(1)	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	-	-	-	4(2)	SALMONELLA O3,10
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	SALMONELLA O1,3,19
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	SALMONELLA O13
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	SALMONELLA OTHERS
-	-	-	1(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4(4)	V.PARAHAEMOLYTICUS
-	-	-	3	-	-	-	4	-	-	-	1	13	6	P.SHIGELLOIDES
1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	1	6	C.JEJUNI
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	S.AUREUS
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	C.PERFRINGENS
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	C.BOTULINUM E
-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	4(1)	S.FLEXNERI 2A
-	1(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5(5)	S.SONNEI
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	N.GONORRHOEA
1	12	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	149	STREPTOCOCCUS A
-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	STREPTOCOCCUS B
-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	STREPTOCOCCUS C
1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	STREPTOCOCCUS G
-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	S.PNEUMONIAE
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	K.PNEUMONIAE
5	29(2)	2	3	3(2)	1	7(7)	24	1	2(1)	1(1)	25	4	392(40)	TOTAL

* EHEC/VTEC (詳細は17ページ参照)

() : 海外旅行者分再掲

<都市立伝染病院>

検出病原菌の都市立伝染病院集計 由来 ヒト 1996年

	サ ッ ホ ロ シ リ マ シ	セ ン タ イ シ リ マ シ	チ ハ シ リ マ シ	ト リ マ シ	ト リ マ シ	ト リ マ シ	カ ワ サ シ リ マ シ	ヨ コ ハ マ シ リ マ シ	ナ コ ヤ シ リ マ シ	キ ョ ウ ト シ リ マ シ	オ オ サ カ シ リ マ シ	コ ウ ヘ シ リ マ シ	ヒ ロ シ マ シ リ マ シ	キ タ キ ョ ウ シ ウ シ	フ ク オ カ シ リ マ シ	コ ウ ケ イ
EIEC	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	2(2)	-	-	-	-	3(3)
ETEC	6(5)	-	-	-	3(2)	4(4)	-	4(2)	-	-	6(5)	-	2(1)	-	-	25(19)
EPEC	2(2)	-	-	-	4(3)	3(3)	-	1	-	1	5(3)	-	5	-	-	21(11)
EHEC/VTEC	-	-	-	-	2	-	1	1	-	-	18(1)	4	2	-	11	39(1)
E.COLI OTHER/UNKNOWN	-	-	-	-	2(2)	-	-	2	-	-	5(1)	-	-	-	-	9(3)
S.TYPHI	1	-	3(3)	2(1)	1	1(1)	1(1)	6(6)	-	2(1)	3(3)	3(2)	-	-	1(1)	24(19)
S.PARTYPHI A	-	-	2	1(1)	2(2)	6(4)	1(1)	-	5(5)	-	1	1(1)	-	-	-	18(14)
SALMONELLA O4	2(2)	-	-	1	-	-	3(3)	1	1(1)	-	1	1	5	-	6(1)	21(7)
SALMONELLA O7	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	1	6(1)	-	-	-	10(1)
SALMONELLA O8	-	-	-	-	2(1)	-	-	1(1)	-	-	-	1	-	-	-	4(2)
SALMONELLA O9	1(1)	-	-	1	4(1)	1(1)	-	2	1(1)	-	7(2)	12	17	-	20	66(6)
SALMONELLA O9,46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	1(1)
SALMONELLA O3,10	-	-	-	1(1)	1(1)	1(1)	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	4(4)
SALMONELLA OTHERS	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)
SALMONELLA UNKNOWN	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2
V.CHOL.O1:ELT.OGA.CT+	1(1)	1(1)	-	2(2)	1	4(4)	1(1)	-	-	1	1	-	1(1)	-	-	13(10)
V.CHOLERA NON-O1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
V.PARAHAEMOLYTICUS	-	-	-	-	5	-	-	8(1)	-	-	2	1	20(1)	-	-	36(2)
V.FLUVIALIS	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
A.HYDROPHILA	-	-	-	1(1)	1	2(2)	-	-	-	1	-	-	1	-	-	6(3)
A.SOBRIA	1(1)	-	-	1(1)	3(2)	-	-	2(1)	-	-	1	-	-	-	-	8(5)
P.SHIGELLOIDES	1(1)	-	-	1(1)	2(2)	1(1)	1(1)	1(1)	-	-	3(2)	-	1(1)	1(1)	-	12(11)
C.JEJUNI	3(3)	-	-	-	1(1)	2(2)	-	2(1)	-	1(1)	7(2)	4	24(2)	-	13(1)	57(13)
C.COLI	-	-	-	-	-	1(1)	-	1(1)	-	-	-	-	-	-	1	3(2)
S.AUREUS	1(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	4(1)
C.PERFRINGENS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3(2)	-	-	-	-	3(2)
S.DYSENTERIAE 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	-	1(1)
S.DYSENTERIAE 2	-	-	-	-	2(2)	2(2)	-	1(1)	-	-	-	-	-	1(1)	-	6(6)
S.DYSENTERIAE 4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	-	1(1)
S.FLEXNERI 1A	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2(1)
S.FLEXNERI 1B	-	1(1)	-	-	-	-	-	1(1)	-	1(1)	1(1)	-	1(1)	1(1)	-	6(6)
S.FLEXNERI 2A	1	2(1)	-	4(3)	3(2)	4(3)	1(1)	2(2)	1(1)	4	2(2)	-	-	-	-	24(15)
S.FLEXNERI 2B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	1(1)
S.FLEXNERI 3A	-	-	1(1)	2(2)	-	2(2)	1(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	6(6)
S.FLEXNERI 4A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	1(1)
S.FLEXNERI 4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	1(1)
S.FLEXNERI 5A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	1(1)
S.FLEXNERI 6	-	-	-	-	1	1(1)	-	1(1)	1(1)	-	-	-	-	-	1(1)	5(4)
S.FLEXNERI Y	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)
S.FLEXNERI NT	1	2	1(1)	1(1)	1(1)	4(3)	-	-	-	-	-	2(2)	-	2(1)	1(1)	15(10)
S.BOYDII 2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1(1)	-	-	-	-	-	2(1)
S.BOYDII 4	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	-	-	-	1(1)
S.BOYDII 13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	1(1)
S.BOYDII 14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)
S.BOYDII NT	-	1(1)	-	-	1(1)	3(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	5(3)
S.SONNEI	6(5)	6(6)	20(3)	33(33)	34(30)	51(47)	24(22)	35(32)	12(12)	15(15)	25(21)	10(10)	6(6)	2(2)	7(7)	286(251)
SHIGELLA UNKNOWN	-	-	-	11(6)	-	-	-	-	1(1)	-	-	5(5)	-	-	-	17(12)
K.OXYTOCA	-	-	-	2	1	-	-	1	-	-	1(1)	-	5	1	1	12(1)
E.HISTOLYTICA	-	1	-	3(1)	5(3)	14(6)	1	5(2)	5(1)	2(1)	12(1)	2(1)	2	-	5	57(16)
G.LAMBIA	-	-	-	2(2)	3(3)	-	-	2(2)	-	-	2(2)	-	-	-	1(1)	10(10)
OTHERS	1(1)	-	-	1	13(3)	-	-	2	-	-	4	-	2	-	-	23(4)
TOTAL	28(23)	14(10)	27(8)	70(56)	103(63)	110(92)	36(31)	81(56)	29(23)	30(22)	119(55)	50(23)	105(15)	10(8)	67(12)	879(497)
ROTAVIRUS	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18(1)	-	64	-	-	82(1)
NEGATIVE	6(6)	-	-	8(6)	19(7)	3(3)	-	17(3)	11(10)	2(1)	18(9)	48(2)	3(2)	-	-	135(49)

() : 海外旅行者分再掲

＜ウイルス検出状況・1997年2月19日現在報告数＞

検体採取月別、由来ヒト（1997年2月19日現在累計）

	95 9月	95 10月	95 11月	95 12月	96 1月	96 2月	96 3月	96 4月	96 5月	96 6月	96 7月	96 8月	96 9月	96 10月	96 11月	96 12月	97 1月	97 2月	合計
PTCORN NT	5	1	4	-	-	1	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	14
COXSA. A2	1	-	-	-	-	-	-	-	1	14	19	1	3	1	4	1	-	-	45
COXSA. A3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
COXSA. A4	5	4	3	-	-	1	2	16	43	20	4	1	-	-	-	-	-	-	99
COXSA. A5	4	1	-	-	-	1	-	-	10	15	4	1	-	1	1	-	-	-	38
COXSA. A6	5	2	4	1	1	1	-	1	18	61	54	2	-	-	-	-	-	-	150
COXSA. A8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	21	1	2	-	-	-	-	-	36
COXSA. A9	6	11	2	1	-	-	-	-	2	13	11	4	1	1	-	-	-	-	52
COXSA. A10	9	2	4	-	-	1	1	-	3	36	72	14	5	3	7	4	-	-	161
COXSA. A16	20	11	7	2	2	-	-	3	4	9	15	3	-	-	1	-	-	-	77
COXSA. A24	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	5
COXSA. B1	3	1	-	1	2	3	-	2	9	11	8	24	2	-	2	1	-	-	69
COXSA. B2	1	1	-	-	1	-	4	3	1	4	8	17	7	5	10	13	-	-	75
COXSA. B3	70	50	16	8	2	-	1	1	2	4	4	4	3	-	-	-	-	-	165
COXSA. B4	14	12	8	5	-	-	3	3	7	28	86	51	21	17	8	2	-	-	265
COXSA. B5	39	9	3	2	-	-	5	3	-	15	19	22	13	1	-	-	-	-	131
COXSA. B6	1	-	1	-	-	-	-	-	2	1	6	1	-	-	-	-	-	-	12
ECHO 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ECHO 3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ECHO 4	-	1	1	-	-	-	11	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	16
ECHO 6	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	1	-	1	-	-	-	9
ECHO 7	56	71	56	13	4	3	4	2	7	37	83	25	19	11	2	-	-	-	393
ECHO 9	6	9	2	-	-	2	-	-	1	2	10	3	3	2	7	1	-	-	48
ECHO 11	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
ECHO 14	-	3	-	-	-	-	2	1	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	9
ECHO 16	15	9	2	2	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	32
ECHO 17	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ECHO 18	1	3	1	-	1	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	10
ECHO 20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	-	-	-	-	-	-	6
ECHO 21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	2	-	-	-	5
ECHO 22	1	4	3	1	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	14
ECHO 25	5	2	2	2	2	1	1	4	-	3	5	7	5	2	5	1	-	-	47
ECHO 30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	2
POLIO 1	-	5	10	3	-	3	2	12	4	-	1	-	-	8	2	-	-	-	50
POLIO 2	-	5	8	3	1	4	1	8	4	7	1	-	-	1	1	-	-	-	44
POLIO 3	-	3	5	1	-	1	2	4	9	2	-	-	2	-	1	-	-	-	30
ENTERO71	3	1	-	-	-	-	1	1	-	1	8	7	7	7	4	-	-	-	40
INF. A NT	-	-	-	1	11	7	1	-	-	-	-	1	2	1	-	5	-	-	29
INF. A (H1)	-	-	46	592	532	231	30	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1433
INF. A H1N1	1	-	15	325	1029	447	55	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1874
INF. A (H3)	-	-	-	3	26	37	55	63	31	1	1	-	1	8	70	422	121	8	847
INF. A H3N2	-	-	-	3	18	48	83	21	20	2	1	-	-	-	17	141	207	-	561
INF. B	-	-	-	1	1	1	-	6	2	-	-	-	-	-	2	2	5	1	21
INF. C	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	5
PARAINF. 1	4	7	2	2	3	1	5	7	6	5	17	2	3	-	-	-	-	-	64
PARAINF. 2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	1	2	16	5	1	-	-	30
PARAINF. 3	-	1	-	-	-	-	-	1	5	17	9	5	-	-	-	-	-	-	38
RS	1	2	2	22	35	52	28	7	2	-	-	-	1	-	2	4	-	-	158
MUMPS	4	17	22	17	11	15	24	19	20	19	17	16	7	6	8	1	1	-	224
MEASLES	6	-	-	-	1	5	-	9	10	3	2	-	-	-	-	-	-	-	43
REO 2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ROTA NT	1	5	6	16	63	150	211	193	51	11	5	2	-	1	1	8	2	-	726
ROTA A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
ROTA C	-	-	-	-	-	-	-	11	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
SRV	1	19	79	70	23	46	33	4	15	1	2	-	-	4	7	4	-	-	308
ADENO NT	18	7	16	10	11	4	6	1	2	5	1	3	2	1	2	1	-	-	90
ADENO 1	11	6	18	19	18	22	17	11	21	26	12	13	8	6	8	4	-	-	220
ADENO 2	13	15	29	35	34	30	25	24	38	39	23	22	7	8	13	1	-	-	356
ADENO 3	60	28	42	67	17	21	22	24	15	34	36	14	10	3	10	-	-	-	403
ADENO 4	6	6	6	5	-	1	-	3	3	1	1	1	2	2	2	-	-	-	39
ADENO 5	7	5	14	11	8	9	13	12	12	20	13	3	3	8	3	2	-	-	143
ADENO 6	3	-	3	-	2	3	1	5	4	6	1	3	-	2	-	2	-	-	35
ADENO 7	11	8	17	30	14	15	11	17	23	24	26	27	1	3	7	3	3	-	240
ADENO 8	17	15	21	12	10	7	4	8	6	3	2	4	-	1	-	1	-	-	111
ADENO 11	7	1	3	4	4	1	1	1	1	1	1	4	-	-	1	-	-	-	30
ADENO 13	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ADENO 19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	2	4	-	-	-	11
ADENO 22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ADENO 31	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ADENO34/35	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ADENO 37	5	6	9	8	5	1	4	3	2	4	4	6	4	-	4	-	-	-	65
ADENO 40	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	5
ADENO40/41	1	2	10	1	1	-	1	1	2	2	-	-	-	2	2	2	-	-	27
HSV NT	3	5	11	3	11	5	4	5	3	3	6	5	1	2	-	-	-	-	67
HSV 1	23	36	28	24	35	27	23	26	22	19	20	22	20	15	13	8	3	-	364
HSV 2	3	-	4	1	4	6	1	1	3	1	2	4	1	3	1	3	-	-	38
VZV	1	3	1	2	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9
CMV	12	18	16	11	18	11	6	12	10	21	20	5	-	1	-	-	3	-	164
CHLAMYD. NT	7	7	4	3	7	3	1	8	6	6	4	3	5	4	2	3	-	-	79
C. TRACHOMA	14	16	16	7	10	12	11	11	11	18	20	17	22	21	18	6	7	-	237
M. PNEUMON.	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	5	4	-	5	1	-	-	18
TOTAL	521	464	585	1351	1980	1239	722	571	439	619	729	400	208	183	268	648	356	9	11292

SRV：小型球形ウイルス（ノーウォーク様、カリシ、アストロウイルス等）

＜検出ウイルスの個別情報＞ 1997年2月報告分

[illegible]

(古来の和歌のハイブリッド)

ウイルス コベツ ジ ヨウホウ (コライ ヒト) 1996.12

[illegible]

[illegible]

[illegible]

SSRV: 小型球形ウイルス (ノーウォーク様, カリシ, アストロウイルス等)

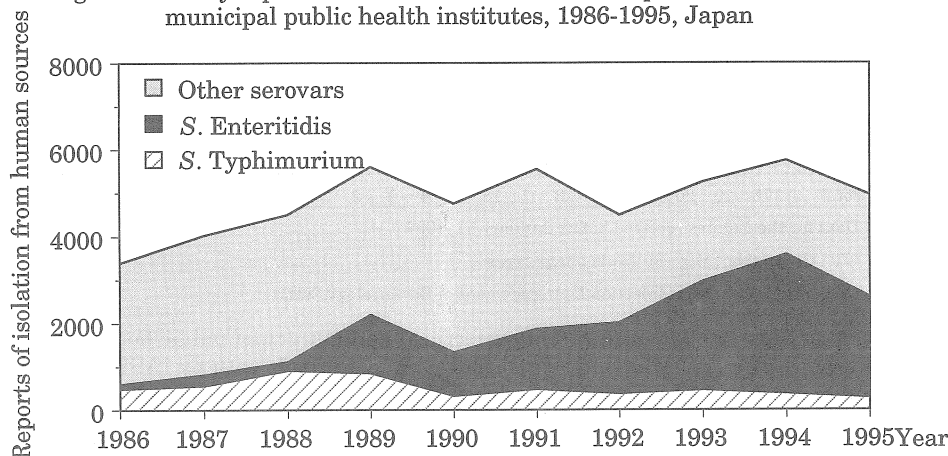
**Infectious Agents
Surveillance Center**National Institute of Health, Toyama
1-23-1, Shinjuku-ku, Tokyo 162, JAPAN
Fax (+81-3)5285-1177, Tel (+81-3)5285-1111
E-mail iasr-edc@nih.go.jp

A large-scale outbreak of gastroenteritis in kindergartens due to <i>Salmonella</i> Enteritidis - Wakayama City.....	53
A death in a family with <i>Salmonella</i> Enteritidis food poisoning - Osaka City.....	55
SRSV genome detection from sporadic cases of infectious gastroenteritis in children - Kagawa.....	55
Lyme disease in Hokkaido, Japan.....	56
Evaluation of the antiserum pools for echovirus serotyping - Enterovirus Reference Center, Japan....	57
AIDS and HIV infections in Japan - A summary report for 1996.....	60

Only the topic of the month of IASR appears in English.

<THE TOPIC OF THIS MONTH>
***Salmonella*, Japan, 1994-1996**

According to the Statistics of Food Poisoning in Japan compiled by the Statistics and Information Department, Minister's Secretariat, the Ministry of Health and Welfare, cases of bacterial food poisoning numbered 29,513 in 1994 and 22,329 in 1995, surpassing 19,089 in 1993. Cases due to *Salmonella* as an etiological agent accounted for 36% in 1993 (6,954 cases), 49% in 1994 (14,410 cases) and 36% in 1995 (7,996 cases), being still ranked top. In number of outbreaks, those due to *Vibrio parahaemolyticus* were ranked top and those due to *Salmonella* second in 1994 and 1995. Regarding cases per outbreak, however, those due to *Vibrio parahaemolyticus* numbered 26 and 23 in each of these years, while those due to *Salmonella* outnumbered these, being 70 and 45, respectively, showing the same tendency as usual.

Figure 1. Yearly reports of isolation of *Salmonella* at prefectural and municipal public health institutes, 1986-1995, JapanTable 1. *Salmonella* serogroups and serovars associated with outbreaks including 10 or more cases in Japan, 1993-1996

O group	Serovars and number of outbreaks per year							
	1993		1994		1995		1996*	
O4	<i>S. Typhimurium</i>	11	<i>S. Typhimurium</i>	5	<i>S. Typhimurium</i>	5	<i>S. Typhimurium</i>	4
	<i>S. Haifa</i>	4	<i>S. Paratyphi B</i>	3	<i>S. Chester</i>	1	<i>S. Heidelberg</i>	3
	<i>S. Paratyphi B</i>	1	<i>S. Stanley</i>	1				
	<i>S. Stanley</i>	1						
	Unknown	1	Unknown	4	Unknown	1		
O7	<i>S. Thompson</i>	4	<i>S. Singapore</i>	2	<i>S. Infantis</i>	5	<i>S. Montevideo</i>	2
	<i>S. Potsdam</i>	1	<i>S. Thompson</i>	1	<i>S. Montevideo</i>	2	<i>S. Singapore</i>	2
	<i>S. Virchow</i>	1	<i>S. Infantis</i>	1	<i>S. Thompson</i>	1	<i>S. Infantis</i>	1
					<i>S. Virchow</i>	1	<i>S. Virchow</i>	1
					<i>S. Braenderup</i>	1	<i>S. Thompson</i>	1
	Unknown	2	Unknown	2	Unknown	1	Unknown	1
O8	<i>S. Litchfield</i>	1	<i>S. Litchfield</i>	1	<i>S. Hadar</i>	3	<i>S. Litchfield</i>	1
			<i>S. Hadar</i>	1	<i>S. Litchfield</i>	1	<i>S. Hadar</i>	1
			Unknown	1				
O9	<i>S. Enteritidis</i>	41	<i>S. Enteritidis</i>	75	<i>S. Enteritidis</i>	69	<i>S. Enteritidis</i>	84
	<i>S. Dublin</i>	1			<i>S. Dublin</i>	1		
	Unknown	5	Unknown	7	Unknown	4	Unknown	6
O3, 10			<i>S. Weltevreden</i>	3	<i>S. Weltevreden</i>	1	<i>S. Anatum</i>	1
O16	<i>S. Gaminara</i>	1					Four serovars**	1
	Total	75		107		97		110

* The numbers of outbreaks for 1996 are based on the provisional data.

** *S. Infantis* (5), *S. Tennessee* (1), *S. Enteritidis* (14), *S. Eastbourne* (3)

(Continued on page 52')

(THE TOPIC OF THIS MONTH-Continued)

Table 2. Fifteen most common *Salmonella* serovars in Japan, 1991-1995

Table 17. The most common <i>Salmonella</i> serovars in Cyprus, 1991-1995										
Serovars and number of isolates per year										
Order	1991		1992		1993		1994		1995	
1	<i>S. Enteritidis</i>	1,388	<i>S. Enteritidis</i>	1,644	<i>S. Enteritidis</i>	2,499	<i>S. Enteritidis</i>	3,202	<i>S. Enteritidis</i>	2,316
2	<i>S. Thompson</i>	670	<i>S. Typhimurium</i>	368	<i>S. Typhimurium</i>	452	<i>S. Typhimurium</i>	369	<i>S. Typhimurium</i>	279
3	<i>S. Typhimurium</i>	471	<i>S. Montevideo</i>	291	<i>S. Thompson</i>	181	<i>S. Infantis</i>	202	<i>S. Hadar</i>	192
4	<i>S. Hadar</i>	323	<i>S. Tennessee</i>	169	<i>S. Litchfield</i>	141	<i>S. Thompson</i>	154	<i>S. Infantis</i>	169
5	<i>S. Braenderup</i>	267	<i>S. Thompson</i>	162	<i>S. Infantis</i>	124	<i>S. Hadar</i>	110	<i>S. Thompson</i>	167
6	<i>S. Montevideo</i>	165	<i>S. Hadar</i>	154	<i>S. Hadar</i>	120	<i>S. Litchfield</i>	107	<i>S. Montevideo</i>	91
7	<i>S. Litchfield</i>	156	<i>S. Infantis</i>	152	<i>S. Virchow</i>	103	<i>S. Montevideo</i>	70	<i>S. Litchfield</i>	87
8	<i>S. Infantis</i>	148	<i>S. Braenderup</i>	147	<i>S. Braenderup</i>	97	<i>S. Agona</i>	63	<i>S. Braenderup</i>	80
9	<i>S. Oranienburg</i>	130	<i>S. Litchfield</i>	85	<i>S. Newport</i>	82	<i>S. Anatum</i>	62	<i>S. Anatum</i>	68
10	<i>S. Potsdam</i>	123	<i>S. Blockley</i>	66	<i>S. Typhi</i>	73	<i>S. Paratyphi B</i>	62	<i>S. Senftenberg</i>	64
11	<i>S. Tennessee</i>	119	<i>S. Agona</i>	64	<i>S. Agona</i>	61	<i>S. Braenderup</i>	61	<i>S. Newport</i>	62
12	<i>S. Agona</i>	109	<i>S. Bareilly</i>	53	<i>S. Anatum</i>	59	<i>S. Singapore</i>	54	<i>S. Agona</i>	60
13	<i>S. Virchow</i>	85	<i>S. Anatum</i>	48	<i>S. Senftenberg</i>	59	<i>S. Virchow</i>	50	<i>S. Bareilly</i>	54
14	<i>S. Cerro</i>	80	<i>S. Heidelberg</i>	44	<i>S. Bareilly</i>	57	<i>S. Newport</i>	44	<i>S. Virchow</i>	48
15	<i>S. Blockley</i>	75	<i>S. Typhi</i>	41	<i>S. Montevideo</i>	56	<i>S. Weltevreden</i>	43	<i>S. Heidelberg</i>	44
			<i>S. Virchow</i>	41						
	Others	1,241	Others	956	Others	1,099	Others	1,096	Others	1,168
	Total	5,550		4,485		5,254		5,749		4,949

Table 3. *Salmonella* Enteritidis phage types associated with outbreaks, 1990-1996, Japan

Year	Number of outbreaks due to <i>S. Enteritidis</i> phage type																	Total outbreaks examined
	1	3	4	5	5a	6	7	8	9	9a	12	13a	14b	22	34	UT	Mix	
1990	2	-	26	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	12	-	3	46
1991	1	2	25	-	1	-	-	3	1	-	-	-	-	-	17	2	6	58
1992	35	1	48	-	-	1	-	6	9	1	-	-	-	-	6	1	2	110
1993	43	2	31	-	-	-	-	2	-	2	1	-	1	-	11	-	1	94
1994	41	-	31	1	1	-	-	2	4	-	-	2	-	3	3	4	3	95
1995	30	4	27	13	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	3	5	85
1996*	21	1	16	1	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	44
Total	175	10	206	15	2	3	1	18	14	4	1	2	1	3	50	12	15	528

* Data for the isolates received before January 31, 1997

UT : Untypable, Mix : Multiple phage types

(Laboratory of Enteric Infection II, Department of Bacteriology, NIH)

Reports on isolation of *Salmonella* sent in from prefectural and municipal public health institutes in the whole country have been the largest in number among those of all pathogens dealt with by IASR. The reports on isolation of *Salmonella* from human sources during 1986-1995 show a tendency that after an increase during 1986-1989, they have remained on the same level, although minor fluctuations can be seen. In regard to the predominant serovars, however, such a tendency can be seen that *S. Enteritidis* has been increasing, while *S. Typhimurium* and other serovars have been decreasing (Fig. 1).

Such a tendency is clearly shown also by the predominant serovars that provoked outbreaks of *Salmonella* food poisoning. There were 10 to 12 different serovars among the isolates from outbreaks involving 10 or more cases reported to IASR in every year during 1993-1996. Of these outbreaks, those due to *S. Enteritidis* numbered 41 in 1993 (55%), 75 in 1994 (70%), 69 in 1995 (71%), and 84 in 1996 (76%), indicating a continuously increasing tendency (Table 1).

Increase in *S. Enteritidis* isolation is also shown clearly by the 15 most common serovars of human isolates in this country (Table 2). The proportion of *S. Enteritidis* isolates to the total *Salmonella* isolates increased suddenly from 5% in 1988 to 24% in 1989, and thereafter increased gradually year after year (see IASR, Vol. 16, No. 1). It was isolated in as high as 47% in 1993 and the proportion changed to 56% in 1994 and again to 47% in 1995.

S. Enteritidis isolates involved in outbreaks were sent to the National Institute of Health for phage-typing (Table 3.). The predominant phage types (PT) during the period from 1990 to 1996 were PT1, which increased to 32% in 1992 (35/110) and gave an average rate of 41% during the following five years, PT4, which suddenly increased to 57% in 1990 (26/46) and gave an average rate of 40% during the following seven years, and PT34, which gave a rate of 26% in 1990 (12/46) and decreased gradually until none was isolated in 1996. Thus, the sum of the rates of PT1 and PT4 isolates attained 84% in 1996, indicating the prevalence of these two PTs of *S. Enteritidis*. The isolates from sporadic cases and the environment are of various PTs and no one can deny the possible future emergence of *S. Enteritidis* food poisoning with these PTs.

Since the rate of *S. Enteritidis* isolation is continuously high, collection of detailed information including that of epidemiology seems to be essential to comprehend its trend.

This report is based on the laboratory data submitted by prefectural/municipal public health institutes, quarantine stations, national/university hospitals and commercial diagnostic laboratories participating in the National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases. The data are compiled by the Infectious Agents Surveillance Center at the National Institute of Health, Japan.